学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

（１）新設組織の概要 ・・・

学生確保の見通し等を記載した書類

（１）　新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
AI・デジタル情報工学科	32 人	160 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
ロボット・システムデザイン工学科	32 人	160 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
半導体・電気情報通信工学科	32 人	160 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
エネルギー・機械デザイン工学科	32 人	160 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
化学・生命工学科	32 人	160 人	旭川市春光台２条２丁目１−６

既設組織	入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
機械システム工学科	40 人	200 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
電気情報工学科	40 人	200 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
システム制御情報工学科	40 人	200 人	旭川市春光台２条２丁目１−６
物質化学工学科	40 人	200 人	旭川市春光台２条２丁目１−６

②新設組織の特色

旭川高専の既設全４学科を廃止し、北海道の地域性と社会ニーズにあわせた新たな学科を新設する。新設組織全体として養成する人材像は「未来の予測が困難な時代に、**確かな専門知識と教養および実験に裏付けられた経験を持ち、それらと情報技術を有効に活用して社会課題を解決することができる。**」としている。養成する人材像に照らして新たな学科として「AI・デジタル情報工学科」、「ロボット・システムデザイン工学科」、「半導体・電気情報通信工学科」、「エネルギー・機械デザイン工学科」、「化学・生命工学科」の、５つの学科を設置する。学校全体での収容定員は 800 人で既設組織と変わらないが、１学科当たりの入学定員は 32 人（収容定員 160 名）とする。学位の分野はいずれの学科も「工学」とする。

新設組織【学科共通】の特色として、

・文科省 AI・数理データサイエンス認定制度のリテラシー、応用基礎の認定カリキュラム
・**北海道の特色である半導体**を含む内容を必修科目で配置
・北海道の特色であるサスティナビリティ、グリーントランスフォーメーション（GX）、スマート農業、医療福祉、ビジネス分野の社会実装系選択科目を配置
・KOSEN”4.0”イニシアチブ「北海道ベースドラーニング」を発展させた実践を伴った課題発見解決型「北海道共創ラーニング」科目の配置
・**学科の垣根を取り払った学科間共通科目**の配置

新設組織【学科（専門分野）】の特色として、

【AI・デジタル情報工学科】

・生成 AI やデジタル技術の急速な普及や技術の進化に適応でき、北海道の産業 DX 化や半導体のユースケースにも対応する人材育成をするため、AI を中心にソフトウェア面の情報技術の学びに主眼をおいたカリキュラム

機械・電気電子・化学生物の基礎を学び、情報工学の専門知識と技術および自然科学や工学の基礎知識を身につけ、新たなデジタル社会を切り拓くために、新技術分野に柔軟に対応することができる人材を育成する。

【ロボット・システムデザイン工学科】

・装置の自動化やシステム全体を俯瞰する人材を育成するため、機械系、電気電子系、情報系の複合的な領域で設計デザインできる人材育成を強化するカリキュラム

機械工学、電気・電子工学、情報工学における知識と、システムデザインの考え方を身につけ、複合・融合領域にまたがる社会や地域特有の課題に対応することができる人材を育成する。

【半導体・電気情報通信工学科】

・先端半導体企業の集積地となって急務となっている北海道の半導体人材育成や 6G など次世代通信技術を備えた人材育成を強化するカリキュラム

電気・半導体工学、情報通信工学の専門知識と、電気・半導体デバイス技術と情報通信技術とが融合する広い専門的視野を身につけ、新技術分野に柔軟に対応することができる人材を育成する。

【エネルギー・機械デザイン工学科】

・再生可能エネルギーの割合が全国平均より高い北海道において、機械系分野を基礎に GX で活躍できる人材育成を強化するカリキュラム

機械工学の知識を核に、航空宇宙分野の開拓や新たなエネルギー（GX）・輸送・環境技術をデザインし専門的視野を身に着け、持続可能な社会に貢献することができる人材を育成する。

【化学・生命工学科】

・日本最大の食料供給地として農林水産業が盛んである北海道の産業構造に鑑み、これらの基礎となる生物に関する高度な知識と技術を持った人材育成を強化するカリキュラム

化学および生物学の専門知識と自然科学や工学、情報技術の基礎知識を身につけ、それらを基に化学・生命工学が関わる幅広い分野に対応することができる人材を育成する。

（２）　人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

デジタル化の急速な進展は、世界に対する根本的な構造変化をもたらすとともに発展可能性を有している。特にコロナ禍以降、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）は加速してきている。DX の中核をなす技術が生成 AI を含む AI であり、**AI を作り、生かし、多様**

性を内包した持続可能な社会の在り方や新しい社会にふさわしい製品・サービスをデザインし、そして、新たな価値を生み出すことができる人材がますます求められている。デジタル化の加速度的な進展と脱炭素の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけではなく、労働需要の在り方にも変化をもたらすことが予想される。そのような状況において、日本の持続的な成長・発展を実現するためには、**成長が見込まれる分野や複雑化する地域課題の解決をリードする高度専門人材が不可欠**である。また、**デジタル・半導体、グリーン等の人類の新たな課題に挑戦していく成長分野への転換や、農業、観光等の地域を支える分野の振興など産学官が一体となって、未来社会を創出し、けん引する高度専門人材を育成**する必要がある。

デジタル競争力について、我が国の競争力は著しく低い。労働力不足に直面する我が国の多くの産業は、サービスを維持・拡大するために、IT で補完する必要性が生じているが、人材のリスキリングが停滞した場合､2030 年には先端 IT 人材が 54.5 万人不足するとの試算もある。また、業務で重要な分野と異なる学問分野の出身者の割合は、ソフトウエア・情報システム開発分野で約 10%と突出して高い。そのほか、DX の取組を進めるに当たっての課題として人材不足を掲げる企業は、アメリカ（20.7%）やドイツ（33.0%）と比較して日本（41.7%）は高い割合を示している。さらに、**AI、バイオテクノロジー、マテリアル、半導体、Beyond 5G （6G）等は我が国の経済・社会を支える基盤的な技術であるとともに、フュージョンエネルギーや量子技術等が新たな産業の芽となる技術となっていくことが想定**される中､サプライチェーンにおける我が国の戦略的自律性・不可欠性を確立するためにも、**これらの重要分野を担い、けん引する人材の育成も急務**である。例えば、我が国の成長と安全保障の両面から重要な位置づけにある半導体産業については、今後 10 年間で少なくとも４万人程度の人材が追加で必要になると見込まれている。加えて、2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、**GX が進められる中、脱炭素に向けた潮流は、新たな産業構造への転換**をもたらし、特に化石燃料に関連する産業の雇用を減少させる一方､再生可能エネルギー等で新たな雇用を創出することが予測される。（我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～ （答申） 令和７年２月 21 日 中央教育審議会を元に作成）

北海道の産業における製造業比率は全国平均値 18.4%の約半分 9.4%である。そして北海道の代表産業は、製造業の約 35%を占める食料品加工業とこれを支える農業や漁業であり、旭川に位置する本校としては､「食」と「農業」を抜きにした取組は考えられない。少子・高齢化については、直ちに対策を講じても結果が出るには 20 年近い時間が必要であるが、地元の雇用を増やし、必要な都市機能を充実・維持していけば、過疎化の進展にブレーキを掛けることが可能となる。その実現のためには、若者にとって魅力的な新たな雇用を地元に創出しなければならない。本校の取り組むべき課題としては、産業構造や就業構造の変革のキーとなる AI・データサイエンス、IoT、ロボティクス、情報セキュリティ分野の人材育成強化と共に北海道の強みの分野と工学技術の融合による新たな可能性を生み出していくことである。

最近、令和５年２月に国からの多大な支援のもと次世代半導体工場が北海道（千歳市）に設立されることになった。これは、**北海道の産業界にとってゲームチェンジャーになりうる状況**である。また、AI が技術のキーとなる新たな時代に必要な人材は、デジタル人材である。**半導**

体のハード面と AI・数理データサイエンスのソフト面の双方について実践を伴う人材の育成が不可欠である。電子情報技術産業協会(JEITA)が示した今後 10 年間の半導体人材の必要数は**北海道だけで 6,000 人**と見込まれている。

各専門分野との融合、連携、高度化そして新たな価値創造のため、北海道の食・農、および GX を学ぶことにより、**持続可能な社会を作り北海道を牽引する人材の育成が**期待されている。

このように、本校の新設組織で養成する人材像は、全国的にも、地域的にも、**社会の動向に沿ったものであり、新設５学科全てで人材の需要は十分にある**。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

高専への主たる進学者である 15 歳人口は、昭和 38（1963）年の約 249 万人をピークに、平成元（1989）年の約 205 万人を経て、大幅に減少を続けており、令和３（2021）年には約 106 万人とピークから半減している。仮に急速な少子化に伴う 15 歳人口の減少が推計どおりに進行すれば、2037 年には、約 74 万人、現在の規模と比較すると約 67%になることが予想されている。（我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～ （答申） 令和７年２月 21 日 中央教育審議会を元に作成）

北海道は全国で最も過疎化、少子・高齢化が厳しい地域である。しかしながら、本校に在籍する学生の 2/3 を占める旭川市は、今後少子化が進むものの、現在北海道第２の人口規模(2025 年４月１日現在 314,101 人）を誇る。年齢別人口から 15 歳人口を推計すると、2026 年 2,476 人、2031 年 2,285 人、2036 年 1,725 人と推移し、**15 歳人口の減少率は全国平均と同等かやや少ない**状況である。（資料１～３参照）

一方で、旭川市では自然災害が少ないことから BCP などを積極的に打ち出し企業誘致を加速させている。また、近隣の東川町では町の魅力発信や少子化対策が功を奏し人口増加に向かっている地域もある。北海道全体としては、先端半導体企業の立地効果を全道規模に広げようという取り組みを北海道庁が積極的に打ち出している。半導体関連企業の誘致または半導体ユースケースとしてデジタル関連企業が集まり、働く世代の子どもたちが増え、15 歳人口増加につながることも期待できる。また、札幌市は 200 万都市であり、早期に科学技術を学ぼうとする中学生は十分にいる。小学５年生から中学３年生まで参加できる早期の科学技術育成事業である JST 委託事業「北海道ジュニアドクター育成塾」においては、全道各地から６年間で 200 名以上を集め、高専で学ぶ潜在的な需要があることを確認している。

これらに加え、15 歳人口に応じた公立高校の配置計画も適宜行われることから、学科名に社会ニーズを反映した本校の新設組織は定員を充足できるといえる。

③新設組織の主な学生募集地域

学生の募集地域は、旭川市や上川地区を中心とし、稚内市や名寄市がある道北圏、北見市や網走市があるオホーツク圏および札幌市がある道央圏を主とする。既設組織では、通学できる旭川市からの学生が約 2/3 を占めている。通学が難しい学生は定員が 280 名程度の規模の学生寮があり、受け入れ態勢が整っている。新設組織でも同様に北海道第２位の都市であ

る旭川市を中心に収容定員の 2/3 程度を目途に学生募集を行う。残りの 1/3 程度は、道北、オホーツク、特に北海道 500 万人の半数が集まる道央圏に向けて学生募集を行う。少子化が進む道央圏以外からの減少分を道央圏からの募集を強化する。また、北海道地区４高専では、複数校受験を行っており北海道全域から中学生の希望に合わせた学校選びが可能になっている。

このように、北海道全体から学生募集を行う仕組みがあるので、新設組織は定員を充足できると言える。

④既設組織の定員充足の状況

過去５年間の志願者数、合格者数、入学者数は別紙２－1 から２－４に示す。入学者数をみると、令和３年度に機械システム工学科と電気情報工学科が、令和６年度にはその２科に加えて物質化学工学科が、令和５年度では全学科が定員を充足していない状況が見られる。令和４年度入試から推薦選抜の定員を入学定員の 60%としたが、志願者の継続的な増加にはつながっていない状況である。しかしながら、志願者数をみると、全体で低下傾向にあるものの公立・私立高校と併願しているものも含めて 1.4 倍以上あり、高専に入学を希望する学生の需要は十分にあると考える。新設する学科は、５学科全て定員を 32 名としており、令和５年度の４学科の入学者数をみると、機械システム工学科が 32 名を下回っているものの、他ではこれを上回っている。また、**令和７年度には、既設組織の全学科定員を満たしている状況**であることを付記する。

（３） 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

入試

・推薦選抜（１月） 定員の 60%程度

推薦出願資格（次のいずれかを満たすこと）

・３年間で９教科５段階評定の合計が 105 以上であり、
主要５教科の５段階評定の合計が 60 以上

・３学年のみ９教科５段階評定の合計が 35 以上であり、
主要５教科の５段階評定の合計が 20 以上

・３年間で D ランク以上であり、
数学各学年の５段階評定が４以上

自己推薦制度

第一希望学科と第二希望学科を志望可能

選抜方法

中学校の成績（学習点）と面接試験の総合判定

・一般学力選抜（２月）

試験科目　　国語・社会・数学・理科・英語、（５科目）

試験会場　　旭川高専、釧路高専、函館高専、苫小牧高専
札幌会場、帯広会場、北見会場、東京会場

選抜方法

学力検査(800 点:数学・理科・英語２倍)
＋学習点(210 点:主要５科目２倍)の総合判定

公立・私立高校との併願可能

・複数校志望制度

一般学力選抜において、函館高専、苫小牧高専、釧路高専と志望学科の選択順を記載可能

広報・PR 活動等

・オープンキャンパス（体験入学）の実施

・進学説明会等の複数回実施（令和６年度 12 回実績）

WEB 進学説明会、イオン旭川西での出張オープンキャンパス、旭川高専でオープンキャンパス、北見市、帯広市、札幌市での説明会・個別相談会、旭川高専で学校祭、平日夜間での実施、進路指導担当者との情報交流会（北見、帯広、旭川）

・中学校主催進学説明会（令和６年度 21 校実績）

・中学校・学習塾訪問（令和６年度訪問回数のべ 106 回実績）

・広報（広告）

道新受験情報誌、北海道高校ガイドブック、石狩管内中学校進路の手引き、札幌市中学校進路のしおり、旭川市教育委員会進路の学習

・各学科イベント　令和６年度８件実績

・旭川 ICT パークによる小中学生向け講座

・公開講座

・JST 委託事業「北海道ジュニアドクター育成塾」および「北海道ジュニアドクター育成塾 2.0」令和元年から６年度まで受講者 214 名のうち 38 名が旭川高専入学

イ　新設組織における取組とその目標

既設組織での入試・学校 PR 効果の継続および HP や SNS での情報発信の充実を目標とする。

入試制度は継続

広報・PR 活動等

・オープンキャンパス（体験入学）の実施

・進学説明会等の複数回実施（10 回以上目標）

WEB 進学説明会、旭川高専でオープンキャンパス、北見市、帯広市、札幌市での説明会・個別相談会、旭川高専で学校祭、平日夜間での実施、進路指導担当者との情報交流会など

・中学校主催進学説明会（15 校以上目標）

・中学校・学習塾訪問（訪問回数のべ 100 回以上目標）

・広報（広告）
道新受験情報誌、北海道高校ガイドブック、石狩管内中学校進路の手引き、札幌市中学校進路のしおり、旭川市教育委員会進路の学習ほか
・旭川 ICT パークによる小中学生向け講座
・公開講座
・JST 委託事業「北海道ジュニアドクター育成塾 2.0」継続
・HP・SNS での継続的な情報発信
・メディア露出機会の創出（２回以上）

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

北海道での少子化は加速度的に進んでいたが、千歳市への 2022 年度の**世界最先端半導体製造を目指すラピダス進出**や札幌市への**グリーントランスファー推進拠点**の設置等により**数兆円規模での投資が見込まれ、北海道の人口減少、少子化に歯止めがかかる**ことが予想される。また、北海道での産業構造の変化が進み、デジタル人材と北海道の課題解決の経験を持つ高専生の需要は増加し、特に北海道内での就職先増加が見込める。**これまでも 1.4 倍以上の倍率があるので、デジタル情報工学を主とする学科の設置、半導体関連を強化する学科の設置など、魅力ある学科の設置と北海道で活躍できる場ができた**ことにより**高専に入学を希望している中学生のいっそうの取り込みが可能**である。これにより、各学科 32 名、５学科での定員 160 名を確保することは十分見込まれる。

加えて直近の**令和７年度入試**をみると、半導体をきっかけとした北海道での高専の認知度向上や高専教育の魅力発信強化の取り組み等にともない、少子化が進むにもかかわらず**1.7 倍の倍率**となったことを付記する。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

学問分野の類似性で比較した場合、近隣地区としては旭川工業高校が対象となる。偏差値を比較すると受験者層は異なっていると考えられる。また、旭川西高校の理数科が対象となる。当該校はスーパーサイエンスハイスクールの指定校であり科学に興味がある層が受験対象となるが、高度な実験設備がある状況ではないので、本校が養成する人材像で特に、「実験に裏付けられた経験」の部分で優位性がある。

立地および学力層で比較した場合、公立高校では旭川東高校、旭川北高校、旭川西高校が比較対象となる。また、私立高校では、旭川実業高校の特進コース等が比較対象となる。いずれも普通科で主として大学受験が目的となっており、中学卒業段階で専門性を決めかねている層になっているので、本校の受験者層と異なる。

高専で比較すると、北海道には、苫小牧高専、釧路高専、函館高専の３校が対象となる。一番近い苫小牧高専でも路程が 200ｋｍ離れており、函館高専にいたっては 440ｋｍ離れている。北海道４高専で複数校受験制度を構築しており、学力選抜時は学校を問わず志望学科の順番をつけることができる。ただ、旭川高専以外では、入学時に専門学科を選ぶのではなく、１学科または機械系電気系情報系などをまとめた学科構成になっていな

い。学びたい分野が比較的明確な受験生にとっては１年次から専門学科を学べるという点において優位性がある。

このように新設組織の特色から、近隣の受験者層が異なるので競合校が存在しない。

イ　競合校の入学志願動向等

明確な競合校はないが近隣の学校の状況は資料４～６のとおり。

ウ　新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

明確な競合校がないため、人材需要や 15 歳人口を鑑み、定員を充足できる。

エ　学生納付金等の金額設定の理由

高専機構により一律に設定

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

資料７に示すように、2023 年度卒業生・修了生アンケート調査（354 名回答）によれば、今後求められる能力・技能として、４割近くが AI、数理データサイエンス、IoT を活用できる力を挙げている。

また、資料８に示すように、2023 年出張オープンキャンパスでのアンケート調査（74 名回答）によれば、今後重要となると思われる知識・技術・能力として、**AI の回答者が 77%**にも及び、それに続き、**２番目が半導体で 31%**、その他、数理データサイエンス、DX、IoT、サイバーセキュリティー、ロボット、情報通信などが挙げられている。

オープンキャンパスなどに参加した小中学生の複数名から、生物は勉強できないのかの質問があった。これは学科名の中で明確に生物の名称がなかったためと考えている。そのため、従来の化学系の学科名に生命工学（生物）の名称も加えたいと考えている。資料８の出張オープンキャンパスでのアンケート調査によれば半導体は 23 件（31%）必要と回答があった。ただし、農業に関する技術の希望者は確認できなかった。しかし、資料７の卒業生・修了生のアンケートからは、農業における労働力不足、ホタテ貝殻の有効利用、地域産業の発展に寄与する学び、農業・畜産分野における工学が指摘されている。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

資料９に示すように、85 社を対象とした 2022 年度の就職先アンケート調査、146 社を対象にした 2023 年度のアンケートによれば、専門分野の人材だけでなく、ICT、AI、データサイエンス、IoT を含む IT 人材への要望が提起されている。また、**半導体、DX、GX などにも関心がある**ことがわかる。

2022 年度から北海道では半導体が注目され、それ以前とは状況が異なってきた。世界最先端半導体技術を目指すラピダス社の意向では、**半導体×AI・数理データサイエンスの分野が必要であると指摘**されている。また、本来の専門に優れた人材もすそ野の広い半導体産業には必要であることが執行役員から指摘されている（2023 年９月 28 日開催の日本工学アカデミー茶話会にて）。そのため、電気・半導体を専門とし、AI・数理データサイ

エンス分野の科目を履修する学科、デジタル情報を専門とし、半導体関連科目を履修する学科、さらに従来の機械、制御、化学・生物を専門とする学科のすべてが必要と判断している。

（４）新設組織の定員設定の理由

これらを総合して、デジタル情報を専門にする学科を新設が必須であった。また、既設学科について 20 年以上改組が行われておらず、合わせて全学科の教育内容を見直すこととした。しかしながら**、少子化が進む中、新しい学科を作るために収容定員を増やすことは難しい**と判断した。そのため、１学科あたりの定員を減らし、収容定員を変えることなく新しい分野に対応した学科を作ることとした。**社会ニーズに照らして、AI・数理データサイエンス分野、半導体分野と北海道共創ラーニングによる課題解決を全ての学科に導入して、より一層の専門知識の充実と展開を図る**こととした。既設学科の倍率や定員充足率をみると、新設学科で 32 名は確保できることは間違いない。

直近の**令和７年度入試をみると、半導体をきっかけとした北海道での高専の認知度向上や高専教育の魅力発信強化の取り組み等にともない、少子化が進むにもかかわらず 1.7 倍の倍率**となった。高専が第１希望ではない学生も含むが、高専に魅力を感じている学生が相対的に増えていることが明確になった。

このように、予測しにくい社会において、子どもたちの夢をかなえる場として新たな学びを提供し、北海道の産業を牽引する人材や、北海道を基盤として世界で活躍する人材を輩出できることに大きな期待がある。

資料目次

【資料１】住民基本台帳による地区、年次別世帯数及び人口の推移
【資料２】旭川市の世帯・人口
【資料３】旭川市の人口ピラミッド
【資料４】高等学校配置計画検討資料
【資料５】令和５年度各学区における生徒の進路動向
【資料６】学区別検討資料
【資料７】2023 年度旭川高専卒業生・修了生アンケート
【資料８】出張オープンキャンパスアンケート等集計結果
【資料９】卒業生・修了生　就職先アンケート調査

「別紙１」新組織が置かれる都道府県への入学状況
「別紙２－１」既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）_機械システム工学科
「別紙２－２」既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）_電気情報工学科
「別紙２－３」既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）_システム制御情報工学科
「別紙２－４」既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）_物質化学工学科
「別紙３」既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績

【資料1】

住民基本台帳による地区，年次別世帯数及び人口の推移【人口（総数）】

この表では旭川市と東鷹栖町が合併し，現行の市区域となった昭和46年3月以降を対象に毎月1日時点（平成25年11月までは末日時点）における地区別人口（総数）の推移を掲載しています。

単位：人

西暦	年	月	日	全市	西	中央	大成	東	新旭川	北星	春光	神居	永山	江丹別	東旭川	神楽	西神楽	東鷹栖
2024	令和6	10	1	317,167	10,412	3,044	5,977	44,699	11,401	30,154	30,578	29,070	40,402	243	49,572	31,152	2,695	27,768
2024	令和6	11	1	316,801	10,406	3,029	5,974	44,605	11,409	30,136	30,526	29,053	40,383	240	49,502	31,116	2,697	27,725
2024	令和6	12	1	316,482	10,402	3,036	5,961	44,555	11,403	30,122	30,501	29,029	40,284	242	49,424	31,135	2,690	27,698
2024	令和7	1	1	316,183	10,383	3,024	5,945	44,474	11,376	30,117	30,500	29,029	40,271	239	49,394	31,088	2,686	27,657
2024	令和7	2	1	315,652	10,361	3,021	5,925	44,387	11,358	30,048	30,465	28,948	40,204	237	49,340	31,055	2,683	27,620
2024	令和7	3	1	315,341	10,349	3,042	5,909	44,333	11,349	29,994	30,434	28,894	40,158	234	49,340	31,043	2,672	27,590
2024	令和7	4	1	314,101	10,283	3,106	5,863	44,187	11,322	29,865	30,244	28,779	39,956	232	49,185	30,899	2,668	27,512
2024	令和7	5	1															
2024	令和7	6	1															
2024	令和7	7	1															
2024	令和7	8	1															
2024	令和7	9	1															
2024	令和7	10	1															
2024	令和7	11	1															
2024	令和7	12	1															

※平成19年4月～平成21年9月は，翌月以降の転出予定者数を含まない。

出典：　旭川市　https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/701/705/d055301.html

【資料2】

第4表　年齢別人口及び人口分析（全市・地区別）

全市

● 各歳別　　令和7年4月1日現在

年齢	人口	男	女	年齢	人口	男	女	年齢	人口	男	女
0	1,391	682	709	35	2,746	1,374	1,372	70	4,563	2,103	2,460
1	1,430	717	713	36	2,881	1,422	1,459	71	4,739	2,159	2,580
2	1,628	821	807	37	3,102	1,549	1,553	72	5,209	2,375	2,834
3	1,725	894	831	38	3,029	1,552	1,477	73	5,246	2,280	2,966
4	1,797	907	890	39	3,308	1,622	1,686	74	5,636	2,478	3,158
5	1,925	987	938	40	3,485	1,702	1,783	75	6,055	2,681	3,374
6	2,070	1,059	1,011	41	3,551	1,821	1,730	76	5,790	2,487	3,303
7	2,101	1,093	1,008	42	3,635	1,800	1,835	77	5,341	2,312	3,029
8	2,154	1,084	1,070	43	3,716	1,818	1,898	78	4,894	2,055	2,839
9	2,285	1,175	1,110	44	3,665	1,800	1,865	79	3,426	1,362	2,064
10	2,308	1,126	1,182	45	4,058	1,999	2,059	80	3,624	1,486	2,138
11	2,419	1,213	1,206	46	4,388	2,152	2,236	81	4,094	1,627	2,467
12	2,397	1,181	1,216	47	4,404	2,136	2,268	82	3,800	1,476	2,324
13	2,477	1,265	1,212	48	4,396	2,213	2,183	83	3,913	1,433	2,480
14	2,476	1,278	1,198	49	4,607	2,280	2,327	84	3,150	1,162	1,988
15	2,540	1,321	1,219	50	5,039	2,415	2,624	85	2,684	989	1,695
16	2,592	1,345	1,247	51	4,913	2,355	2,558	86	2,518	927	1,591
17	2,602	1,332	1,270	52	4,874	2,335	2,539	87	2,630	927	1,703
18	2,524	1,299	1,225	53	4,683	2,279	2,404	88	2,234	794	1,440
19	2,376	1,171	1,205	54	4,531	2,140	2,391	89	2,104	721	1,383
20	2,460	1,218	1,242	55	4,590	2,194	2,396	90	1,707	515	1,192
21	2,553	1,271	1,282	56	4,477	2,054	2,423	91	1,471	461	1,010
22	2,345	1,161	1,184	57	4,594	2,141	2,453	92	1,401	399	1,002
23	2,536	1,290	1,246	58	3,711	1,765	1,946	93	1,063	290	773
24	2,463	1,250	1,213	59	4,101	1,817	2,284	94	922	245	677
25	2,473	1,273	1,200	60	4,203	1,904	2,299	95	672	140	532
26	2,514	1,273	1,241	61	4,257	2,045	2,212	96	548	111	437
27	2,458	1,257	1,201	62	4,160	1,894	2,266	97	406	71	335
28	2,467	1,253	1,214	63	4,097	1,886	2,211	98	256	40	216
29	2,389	1,219	1,170	64	4,104	1,889	2,215	99	180	23	157
30	2,618	1,366	1,252	65	4,149	1,965	2,184	100～	327	45	282
31	2,496	1,235	1,261	66	4,157	1,900	2,257	不詳	－	－	－
32	2,629	1,340	1,289	67	4,284	1,990	2,294	**総数**	314,101	145,403	168,698
33	2,712	1,381	1,331	68	4,265	1,930	2,335	平均年齢	51.6	49.3	53.6
34	2,571	1,263	1,308	69	4,437	2,091	2,346	世帯数	176,568	…	…

● ５歳階級別

年齢階級	人口			割合（%）		
	総数	男	女	総数	男	女
0～4	7,971	4,021	3,950	2.5	2.8	2.3
5～9	10,535	5,398	5,137	3.4	3.7	3.0
10～14	12,077	6,063	6,014	3.8	4.2	3.6
15～19	12,634	6,468	6,166	4.0	4.4	3.7
20～24	12,357	6,190	6,167	3.9	4.3	3.7
25～29	12,301	6,275	6,026	3.9	4.3	3.6
30～34	13,026	6,585	6,441	4.1	4.5	3.8
35～39	15,066	7,519	7,547	4.8	5.2	4.5
40～44	18,052	8,941	9,111	5.7	6.1	5.4
45～49	21,853	10,780	11,073	7.0	7.4	6.6
50～54	24,040	11,524	12,516	7.7	7.9	7.4
55～59	21,473	9,971	11,502	6.8	6.9	6.8
60～64	20,821	9,618	11,203	6.6	6.6	6.6
65～69	21,292	9,876	11,416	6.8	6.8	6.8
70～74	25,393	11,395	13,998	8.1	7.8	8.3
75～79	25,506	10,897	14,609	8.1	7.5	8.7
80～84	18,581	7,184	11,397	5.9	4.9	6.8
85～89	12,170	4,358	7,812	3.9	3.0	4.6
90～94	6,564	1,910	4,654	2.1	1.3	2.8
95～99	2,062	385	1,677	0.7	0.3	1.0
100～	327	45	282	0.1	0.0	0.2
（再掲）0～14	30,583	15,482	15,101	9.7	10.6	9.0
（再掲）15～64	171,623	83,871	87,752	54.6	57.7	52.0
（再掲）65～	111,895	46,050	65,845	35.6	31.7	39.0

●人口分析

年少人口指数	17.8
従属人口指数	83.0
老齢人口指数	65.2
老齢化指数	365.9
人口性比（女性＝100）	86.2
1世帯当たり人員（人）	1.8
人口密度（人/㎢）	420.1
面積(㎢)	747.66

＜人口分析算出式＞

年少人口指数
0～14歳人口÷15～64歳人口×100

従属人口指数
（0～14歳人口＋65歳以上人口）÷
15～64歳人口×100

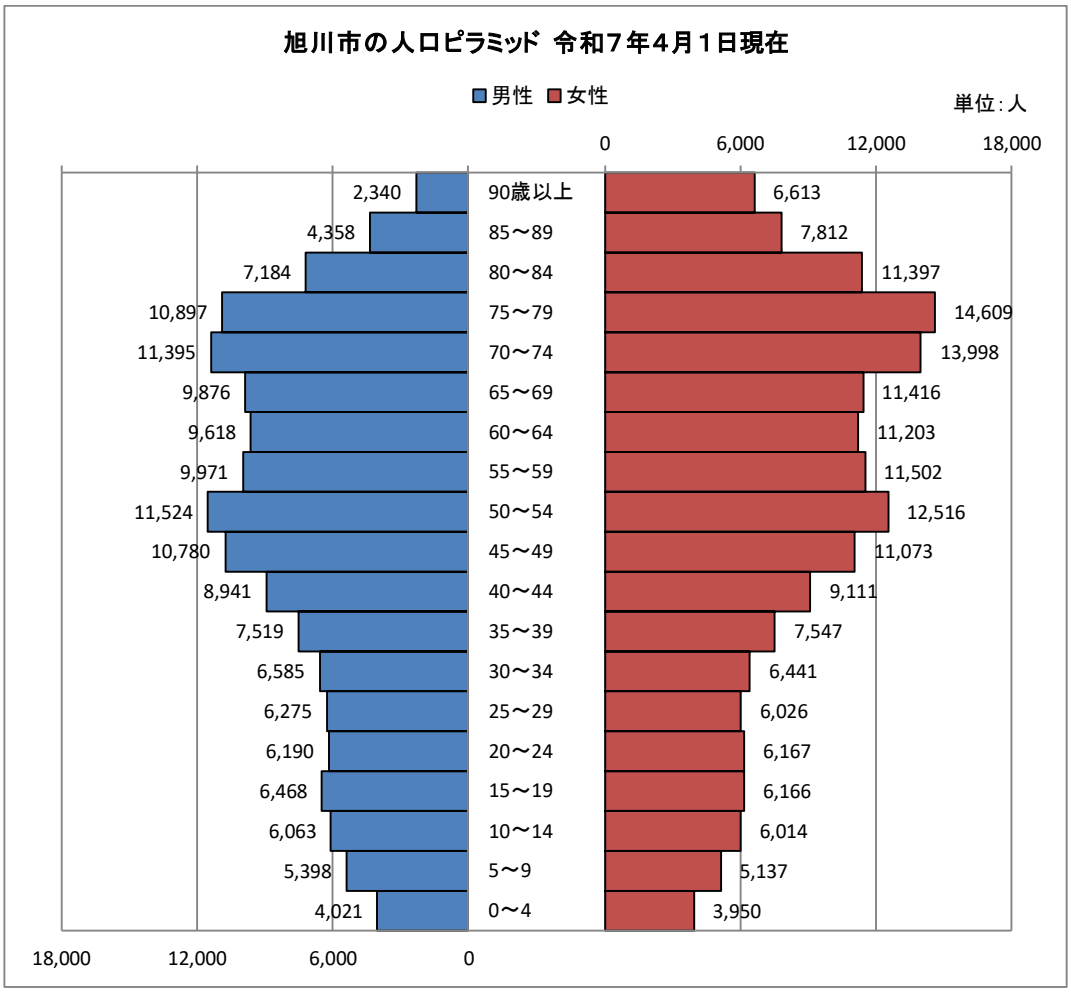
老齢人口指数
65歳以上人口÷15～64歳人口×100

老齢化指数
65歳以上人口÷0～14歳人口×100

人口性比(女性を100とした場合)
男性人口÷女性人口×100

出典：　旭川市　https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/300/701/705/d055301.html

【資料3】



出典：旭川市　https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/700/701/705/d055301.html

【資料4】

高等学校配置計画検討資料

上川南　学区

1　中卒者の状況及び調整計画

市町村		30 (2018)	1 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)	5 (2023)	6 (2024)	7 (2025)	8 (2026)	9 (2027)	10 (2028)	11 (2029)	12 (2030)	13 (2031)	R10～R13の増減	R7～R13の増減	14 (2032)
		← 実数						→ 推計										
上川南	旭川市	2,703	2,912	2,730	2,629	2,715	2,565	2,576	2,507	2,455	2,475	2,359	2,401	2,280	2,265	▲ 210	▲ 311	2,154
	鷹栖町	77	89	91	76	75	83	60	51	60	49	51	50	55	45	▲ 4	▲ 15	47
	東神楽町	111	108	112	122	111	110	105	115	109	114	131	110	111	98	▲ 16	▲ 7	106
	当麻町	64	58	56	50	51	45	50	48	51	59	43	50	53	44	▲ 15	▲ 6	48
	比布町	27	32	24	26	20	37	24	21	25	28	27	27	25	32	4	8	22
	東川町	77	77	85	83	70	73	75	83	81	78	78	94	83	92	14	17	105
	美瑛町	89	79	88	81	69	68	69	82	87	72	70	82	54	70	▲ 2	1	51
	愛別町	33	17	12	23	23	18	15	13	14	14	18	13	21	17	3	2	6
	上川町	22	36	26	23	19	16	25	16	16	17	14	16	17	10	▲ 7	▲ 15	11
	富良野市	228	181	186	169	168	160	161	144	178	153	159	146	115	114	▲ 39	▲ 47	98
	上富良野町	107	97	92	80	100	89	83	82	77	88	78	64	63	78	▲ 10	▲ 5	49
	中富良野町	61	43	50	48	50	43	43	43	46	35	33	35	31	22	▲ 13	▲ 21	30
	南富良野町	28	22	21	15	13	12	12	17	7	13	15	15	23	16	3	4	12
	占冠村	7	10	6	6	4	12	11	8	3	5	2	7	11	15	10	4	8
	幌加内町	20	8	18	12	10	10	9	9	11	3	6	10	4	4	1	▲ 5	7
	学区内中卒者数	3,654	3,769	3,597	3,443	3,498	3,341	3,318	3,239	3,220	3,203	3,084	3,120	2,946	2,922	▲ 281	▲ 396	2,754
	対前年増減	▲ 247	115	▲ 172	▲ 154	55	▲ 157	▲ 23	▲ 79	▲ 19	▲ 17	▲ 119	36	▲ 174	▲ 24	-	-	▲ 168
調整計画	学級増		上川１		美瑛１	美瑛１		富良野１	新設校５									
	学級定員増																	
	学級減		公立3校 旭川北△1 旭川工業△1 上川△1 （２次募集後）	公立1校 上川△1 （２次募集後）	公立4校 旭川東△1 旭川永嶺△1 富良野緑峰△1 美瑛△1 （２次募集後）	公立3校 旭川西△１ 旭川商業△１ 美瑛△１ （２次募集後）	公立1校 美瑛△１ （２次募集後）	公立4校 旭川北△１ 旭川南△１ 旭川永嶺△１ 富良野△１ （２次募集後）		富良野△4 富良野緑峰△３								
	転換等				旭川西 単位制				新設校 単位制									
	定員 全日制	3,856	3,856	3,696	3,616	3,616	3,456	3,496	3,416	3,416								
	定員 定時制	240	240	240	240	240	240	240	240	240								
	定員 計	4,096	4,096	3,936	3,856	3,856	3,696	3,736	3,656	3,656								
	中卒者に対する割合 全日制	105.5	102.3	102.8	105.0	103.4	103.4	105.4	105.5	106.1								
	中卒者に対する割合 定時制	6.6	6.4	6.7	7.0	6.9	7.2	7.2	7.4	7.5								
	中卒者に対する割合 計	112.1	108.7	109.4	112.0	110.2	110.6	112.6	112.9	113.5								

比率	4(2022)	6(2024)
公立	68.6	67.5
私立	31.4	32.5

2　定員及び欠員（令和６年度(2024年度)）　＊市町村立

	全日：普 CL	全日：普 定員	全日：職 CL	全日：職 定員	定時 CL	定時 定員	計	６年度欠員 全普	６年度欠員 全職	６年度欠員 定時
旭川東	6	240			1	40	280	1		21
旭川西	5	200					200			
旭川南	5	200					200			
旭川北	5	200			1	40	240	-1		28
旭川永嶺	5	200					200			
旭川商業			5	200	1	40	240			28
旭川工業			6	240	2	80	320		34	49
旭川農業			4	160			160		7	
鷹栖	1	40					40	21		
東川	2	80					80	9		
美瑛	1	40					40	22		
上川	1	40					40	19		
富良野	4	160					160	31		
富良野緑峰			3	120			120		76	
上富良野	1	40					40	18		
*南富良野	1	40					40	20		
*幌加内					1	40	40			23
公立計	37	1,480	18	720	6	240	2,440	140	117	149
旭川志峯		225					225	80		
旭川実業		205		120			325	42	3	
旭川龍谷		240					240	37		
旭川藤星		140					140			
旭川明成		206					206	-45		
私立計		1,016		120			1,136	114	3	
旭川高専			4	160			160		34	
合計	37	2,496	22	1,000	6	240	3,736	254	154	149
割合		74.7		29.9		7.2	111.8			

上川南学区　進学者の状況（全日制課程）

令和６年度（2024年度）

＊：市町村立　　（）：普通科・総合学科以外（内数）

区分		学校名	学級	定員	学区内 上川1 旭川	鷹栖	東神楽	当麻	比布	東川	美瑛	小計	学区内 上川2 愛別	上川	小計	学区内 上川3 富良野	上富良野	中富良野	南富良野	占冠	小計	学区内 上川南 幌加内	計	学区外 上川北 上川4	上川5	宗谷 宗谷1	宗谷2	宗谷3	宗谷4	幌延	空知北 空知2	空知4	空知5	石狩	その他	計	道外	留年	合計	欠員
上川1	公立	旭川東	6	240	183		9	2	2	6	4	206		1	1	6		1			7		214	4	9		1				1		8		2	25			239	1
			(1)	(40)	(26)					(3)	(1)	(30)											(30)	(1)	(3)								(3)		(3)	(10)			(40)	
		旭川西	5	200	146	3	3	2	2	4	4	164				2	3	1		1	7		171	8	5		1						9		6	29			200	
		旭川南	5	200	148		19			10	9	186				1	8	1			10		196	1	1		1								1	4			200	
		旭川北	5	200	153	3	3	1	3	6	3	172	2	1	3	4	2	2	1		9		184	2	9								1		4	16		1	201	-1
		旭川永嶺	5	200	158	9	2	8	1	2	1	181	3	8	11		1				1	1	194	1	1					1		1	1		1	6			200	
			(5)	(200)	(165)	(5)	(8)	(2)		(5)	(5)	(190)	(2)	(2)	(4)			(1)			(1)		(195)										(1)		(4)	(5)			(200)	
		旭川商業	5	200	165	5	8	2		5	5	190	2	2	4			1			1		195										1		4	5			200	
			(6)	(240)	(164)		(11)	(2)	(1)	(4)	(6)	(188)		(2)	(2)	(4)	(2)	(3)			(9)		(199)		(1)						(1)				(3)	(5)	(1)	(1)	(206)	(34)
		旭川工業	6	240	164		11	2	1	4	6	188		2	2	4	2	3			9		199		1						1				3	5	1	1	206	34
			(4)	(160)	(126)	(2)	(1)	(5)	(8)	(2)	(1)	(145)	(3)	(1)	(4)		(1)				(1)		(150)	(1)		(2)										(3)			(153)	(7)
		旭川農業	4	160	126	2	1	5	8	2	1	145	3	1	4		1				1		150	1		2										3			153	7
	立	旭川市内計	41	1,640	1,243	22	56	22	17	39	33	1,432	10	15	25	17	17	9	1	1	45	1	1,503	17	26	2	3			1	2	1	20		21	93	1	2	1,599	41
		鷹栖	1	40	16	3						19											19																19	21
		東川	2	80	55		9			6		70											70														1		71	9
		美瑛	1	40	6		1				9	16											16														2	18	22
			(16)	(640)	(481)	(7)	(20)	(9)	(9)	(14)	(13)	(553)	(5)	(5)	(10)	(4)	(3)	(4)			(11)		(574)	(2)	(4)	(2)					(1)		(4)		(10)	(23)	(1)	(1)	(599)	(41)
		計	45	1,800	1,320	25	66	22	17	45	42	1,537	10	15	25	17	17	9	1	1	45	1	1,608	17	26	2	3			1	2	1	20		21	93	2	4	1,707	93
	私立	旭川志峯		225																																		145	80
		旭川実業		325																																		280	45
		旭川龍谷		240																																		203	37
		旭川藤星		140																																		140	
		旭川明成		206																																		251	-45
		計		1,136																																		1,019	117
	国	旭川高専		160																																		126	34
	計		45	3,096	1,320	25	66	22	17	45	42	1,537	10	15	25	17	17	9	1	1	45	1	1,608	17	26	2	3			1	2	1	20		21	93	2	4	2,852	244
2	公立	上川	1	40	10			4				14	1	5	6								20												1	1			21	19
上川3	公立	富良野	4	160	2		1			1	2	6				86	14	19	2	2	123		129																129	31
			(3)	(120)												(26)	(6)	(8)	(1)		(41)		(41)								(3)				(3)			(44)	(76)
		富良野緑峰	3	120												26	6	8	1		41		41								3				3			44	76
		上富良野	1	40													21	1			22		22																22	18
		＊南富良野	1	40	2							2				2		1	7	1	11		13											6	1	7			20	20
			(3)	(120)												(26)	(6)	(8)	(1)		(41)		(41)								(3)				(3)			(44)	(76)
		計	9	360	4		1			1	2	8				114	41	29	10	3	197		205								3		6	1	10			215	145
学区計			55	3,496	1,334	25	67	26	17	46	44	1,559	11	20	31	131	58	38	11	4	242	1	1,833	17	26	2	3			1	2	4	20	6	23	104	2	4	3,088	408

学区外		
上川4	公立	
上川5	公立	
宗谷	公立	
	私立	
	計	
空知北	公立	
石狩	公立	
	私立	
	計	
その他	公立	
	私立	
	高専	
	計	
計	公立	
	私立	
	高専	
	道外	
	計	
全道	計	1,334 25 67 26 17 46 44 1,559 11 20 31 131 58 38 11 4 242 1 1,833

自学区	
流入	
流出	
流出入	

出典：令和６年度（2024年度）第１回公立高等学校配置計画地域別検討協議会資料

【資料5】

令和５年度 上川南学区における生徒の進路動向
【全日制課程（高等専門学校を含む）】

出典：
令和6年度（2024年度）第１回公立高等学校配置計画地域別検討協議会資料

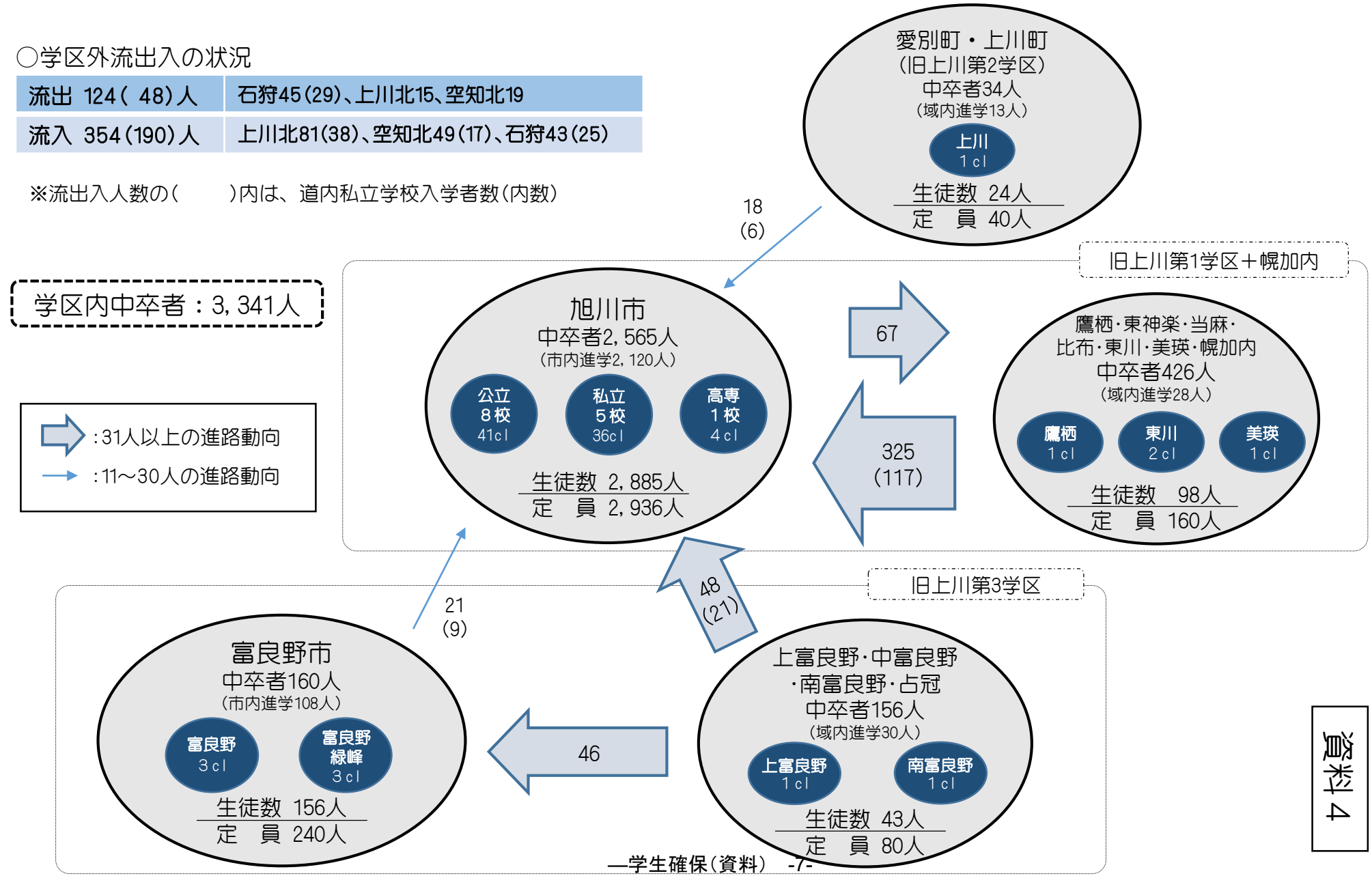
○学区外流出入の状況

流出 124（ 48）人	石狩45（29）、上川北15、空知北19
流入 354（190）人	上川北81（38）、空知北49（17）、石狩43（25）

※流出入人数の（　　）内は、道内私立学校入学者数（内数）

学区内中卒者：3，341人

：31人以上の進路動向
：11～30人の進路動向



資料４

【資料6】

資料５

地域別検討協議会学区別検討資料（上川南学区）

上川南学区高校配置計画の見込み

区　　分	Ｒ６ (2024)	Ｒ７ (2025)	Ｒ８ (2026)	Ｒ９ (2027)	Ｒ10 (2028)	Ｒ11 (2029)	Ｒ12 (2030)	Ｒ13 (2031)	令和７～１３ (2025～2031) 年までの 増減	令和１０～１３ (2028～2031) 年までの 増減
学区内中卒者数	3, 318	3, 239	3, 220	3, 203	3, 084	3, 120	2, 946	2, 922	▲ 396	▲ 281
対前年増減	▲ 23	▲ 79	▲ 19	▲ 17	▲ 119	＋ 36	▲ 174	▲ 24		
旭川市中卒者数	(2, 576)	(2, 507)	(2, 455)	(2, 475)	(2, 359)	(2, 401)	(2, 280)	(2, 265)	▲ 311	▲ 210
対前年増減	＋ 11	▲ 69	▲ 52	＋ 20	▲ 116	＋ 42	▲ 121	▲ 15		
富良野市中卒者数	(161)	(144)	(178)	(153)	(159)	(146)	(115)	(114)	▲ 47	▲ 39
対前年増減	＋ 1	▲ 17	＋ 34	▲ 25	＋ 6	▲ 13	▲ 31	▲ 1		

学校名	令和６(2024)年度の学科及び募集学級数 普通	職業	計	R6(2024)欠員	令和７(2025)年度	令和８(2026)年度	令和９(2027)年度の見通し	令和10(2028)～13(2031)年度までの見通し	摘要
旭 川 東	6		6	1			公私比率勘案後４～５学級に相当する中卒者の減	公私比率勘案後４年間で４～５学級に相当する中卒者の減	
単 旭 川 西	5		5	0					
単 旭 川 北	5		5	-1					
総 旭 川 南	5		5	0					
単 旭川永嶺	5		5	0					
旭川商業		商 5	5	0					
旭川工業		工 6	6	34					
旭川農業		農 4	4	7					
鷹 栖	1		1	21					
東 川	2		2	9					
美 瑛	1		1	22					
中高 上 川	1		1	19					
単 富 良 野	4		4	31	普▲４				
富良野緑峰		商 1 農 1 工 1	3	76	商▲１ 工▲１ 農▲１				
新 設 校					普＋３ 工＋１ 農＋１ 〔単位制導入〕				富良野緑峰高校校舎を使用
上富良野	1		1	18					
*南富良野	1		1	20					
16校	37	18	55	257	普▲４　普＋３ 工▲１　工＋１ 農▲１　農＋１ 商▲１				

注１　学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。
注２　学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域連携校。
注３　学校名の＊は市町村立学校。

学区の検討事項と現状・課題

学区の検討事項	現状・課題
○中卒者数の増減に対応しながら、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方	・令和９（２０２７）年度の定員調整等の検討に当たっては、１７人の中卒者数の減のほか、市町村ごとの中卒者数の状況なども考慮した検討が必要 ・令和１０（２０２８）年以降については、令和１３（２０３１）年までに学区全体で２８１人の中卒者数の減が見込まれること、特に令和１０年（２０２８）年において学区全体で１１９人（旭川市で１１６人）、令和１２（２０３０）年に１７４人（旭川市で１２１人）の大幅な減が見込まれることから、旭川市内及び周辺町における配置の在り方の検討が必要
○１学級規模の高校の在り方	・地域連携校以外の第１学年１学級の高校について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２年連続して２０人未満となった場合は、再編整備の検討が必要
○地域連携校の導入	・第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔システムを活用した教育環境の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要

出典：令和６年度（2024年度）第１回公立高等学校配置計画地域別検討協議会資料

【資料7】

2023年度旭川高専卒業生・修了生アンケート

354	07:38	アクティブ
応答	完了するのにかかった平均時間	状態

1. 旭川高専における最終学歴を教えてください。

本科卒業	308
専攻科修了	46



2. 卒業学科を教えてください。

機械システム工学科（機械工学科...	111
電気情報工学科（電気情報工学...	67
システム制御情報工学科（制御情...	42
物質化学工学科（工業化学科）	88



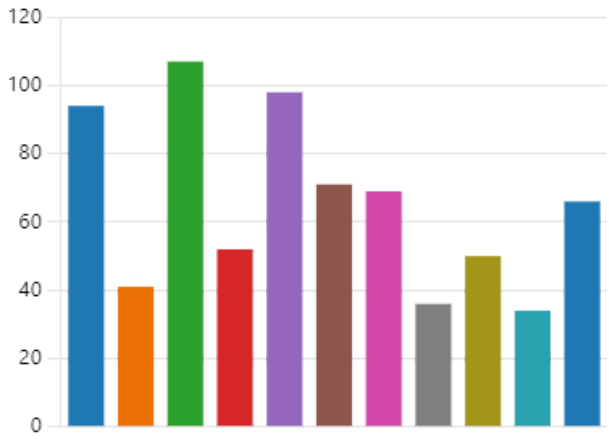
3. 卒業後、何年程度経過しているか当てはまるものをお選び下さい。

5年未満	52
5年から10年	39
10年から20年	17
20年から30年	53
30年以上	147

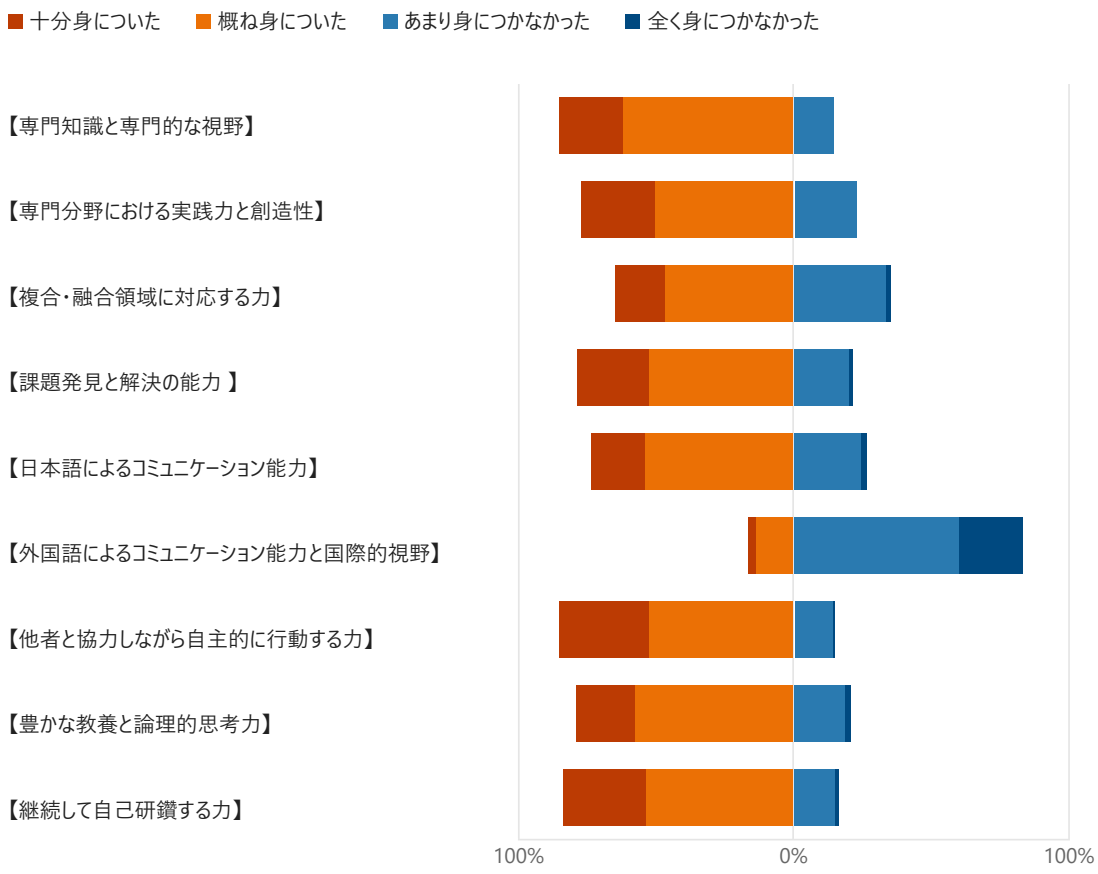


4. 現在までに携わった主な職種をお教えください（複数回答可）

生産（製造）	94
生産（保全）	41
研究・開発	107
サービスエンジニアリング	52
設計	98
品質管理	71
経営・管理	69
調査・企画	36
営業	50
事務職	34
その他	66



5. ご自身が旭川高専在学中に身に付けた知識や能力に関する質問です。
以下のそれぞれの項目について当てはまるものを選択してください。



6. 修了した専攻を教えてください。

生産システム工学専攻（機械出身...	4
生産システム工学専攻（電気出身...	4
生産システム工学専攻（制御出身...	6
応用化学専攻	32



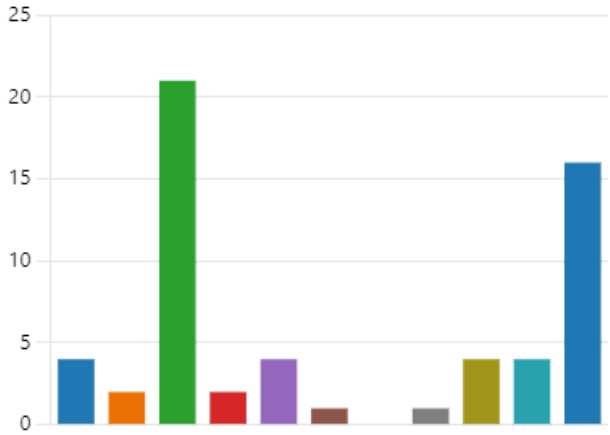
7. 修了後、何年程度経過しているか当てはまるものをお選び下さい。

5年未満	24
5年から10年	10
10年から15年	6
15年以上	6

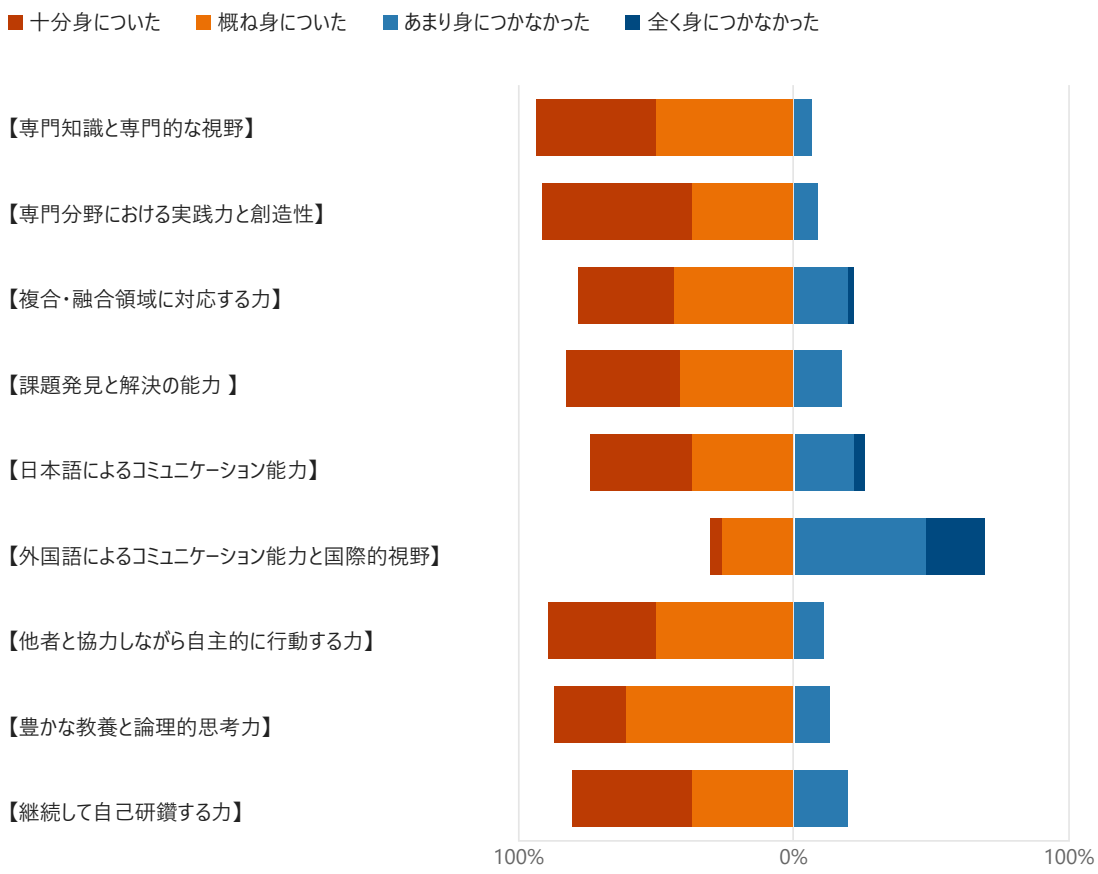


8. 現在までに携わった主な職種をお教えください（複数回答可）

生産（製造）	4
生産（保全）	2
研究・開発	21
サービスエンジニアリング	2
設計	4
品質管理	1
経営・管理	0
調査・企画	1
営業	4
事務職	4
その他	16

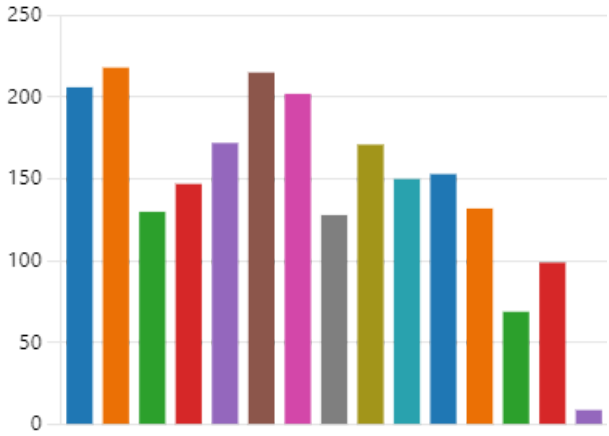


9. ご自身が旭川高専専攻科在学中に身に付けた知識や能力に関する質問です。
以下のそれぞれの項目について当てはまるものを選択してください。



10. 旭川高専の本科卒業生・専攻科修了生に求められる能力・技能について、今後も重要であると思われるものを以下からお選びください。（複数選択可）

専門知識と専門的な視野	206
専門分野における実践力と創造性	218
複合・融合領域に対応する力	130
日本語によるコミュニケーション能力	147
外国語によるコミュニケーション能力...	172
課題発見と解決の能力	215
他者と協働しながら自主的に行動...	202
豊かな教養と論理的思考力	128
継続して自己研鑽する力	171
情報収集・活用・発信力	150
社会や環境、人々に対する影響や...	153
AI、数理データ、IoTを活用できる力	132
サイバーセキュリティに関するスキル	69
エネルギーや環境問題を解決するた...	99
その他	9



11. 今後の旭川高専の本科卒業生・専攻科修了生に期待する技術領域がございましたら、ご記入ください（複数記載可）。

122
応答

最新の回答

更新

17回答者 (14%) この質問に **分野**回答しました。



12. 旭川高専に対するご意見、ご提案等があればご記入ください。

106
応答

最新の回答

26回答者 (25%) この質問に こ回答しました。



11. 今後の旭川高専の本科卒業生・専攻科修了生に期待する技術領域がございましたら、ご記入ください（複数記載可）。

- エネルギー分野
- 外国語
- ロボットなどの情報機器の設計・開発
- コンピュータが出始めの頃、コンピューター開発に従事しました。 ⇒ パイオニア精神／垣根を作らない人間性 ⇒ 量子コンピュータ／AI／インターネットの次の通信技術
- 人手不足の領域の中で、自動化を推進している建設機械、除雪機械、農業機械などに踏み込んでみてはどうか､現状把握と課題の調査を踏まえソフト開発の実用化を目指すことも必要と考える。
- 若手で PDCA を自己完結で実践出来る人材が少なくなってきています｡単純作業は今後ロボットや AI に置き換わりますので、とにかく自分でモノを考えて動ける人材の育成をお願い致します。
- 勉学する意義の意識付け何故に工学系選択したか意識付け大切
- 基礎学力、好奇心、解決力があれば、時代の変化にもついていける、たくましい技術者になれると思います。
- 半導体、電気機械融合知識
- イノベーティブな人材が求められているが、専門領域に限らず、マクロで世界を見つめ、技術と結びつけることが必要。また、開発した技術を世の中に出すための、お金（開発費や値付け、資金調達など）についての基礎的知識を身につけることにも意識を持って欲しい
- 私が在学していた頃は、担任をしていた英語の先生が本校では英語ができても仕方がないと話していました。愕然としたことが今でも記憶に新しいです。技術力だけではダメで、その技術力を他国の人たちに伝えたりアピールしたりすることなどで、技術力をアップさせることが重要だと思います。今も、高専から大学編入学した後に英語力の不足に苦労していると聞いているので、本科学生の英語力アップをしていただきたいです。
- 教科書で終わらず、その内容が具体的に現場でどのように使われるのか、現場での活用事例を知ること。
- 期待する技術領域については特にございません（既に時代から遅れすぎました)。今後共、企業活動等においての実行力が重要と思います。
- AI 知識
- 医工学、地球環境、SDGS
- 現在、注目されている AI 技術や情報科学分野を牽引する人材が育って欲しい。
- なんでもよいからやり抜く力
- 自然エネルギーの利活用
- 循環化社会への変遷と技術創造力のアップに貢献できる人材の技術面からの育成
- テクニカル以外に、HS/CS
- 情報セキュリティ、ロボティクス
- matlab を使いこなせる能力、SMT 部品の半田付け、高周波回路設計、基板パターン設計
- 私の場合、専門外のコンピュータのソフト開発という未知の仕事についたが、寮生活と部活の経

験が役に立つた。技術力に加え人間力。

- プログラミング
- 振り返るとコンピュータ工学や電子回路設計の実習に偏っていると思う。自身は工場のエンジニアに就業したがテスターも使えないし MCCB と ELB の違いも知らなかった。大学レベルの高等教育機関に位置する高専では無理難題ではあるが、工業高校や職業訓練校の実習のような足元の実践力を強くすることに期待。電気法規や強電、機械領域のマインドも持ったエンジニアを育成することに期待。電気事業法や技術基準、電気用品安全法といった電気主任技術者試験でいえば法規分野や知的財産法に則った設計体験を通じ、法令や安全マインド醸成。電気取扱業務特別教育で行われるような、PAS や断路器開閉操作、絶縁抵抗計の使い方など強電分野の実践教育。電動機や発電機、変圧器、インバータ、空調、照明といった電気機械分野や省エネ。
- 蓄電池分野
- 生成 AI 応用技術、ハイブリッド、通信技術、暗号化技術など現在企業が欲しい技術を実践的に活用できる人材教育だが必要と考える。
- 基礎力は意外に付いていた。自信を持ち好きな興味がある事に突き進んで欲しい。
- 専門知識は大卒よりも無くて当たり前。変化に対応するための努力、論理的思考、他人に伝える力が必要。
- 物理×情報、化学×情報
- ロボット工学
- 卒業生が,「自分は○○の専門家だ」と言えるように自分の専門分野の基礎をしっかりと学ばせる。
- 専門性のみでは勝てない、複合、融合に対応する柔軟性が重要
- 専攻分野ばかりでなく、デジタル技術、横断的に課題を抽出し解決する能力
- 物理学
- 現在の技術領域、身につく力は期待を十分に満たしていると考えます。学ぶことの重要性を在学時代にどこまで認識できるかが重要であり、学校としては注力すべきです。
- ロボティクス
- 実験、実習を通して磨いた現場力。机上の空論ではなく、実践的な経験に基づいた肌感覚で物事のイロハが分かるような人材を期待する。技術的な知識を持っていても、それをどのように現場に生かしていくかのイメージを持つことが大切。
- 最先端のデジタル分野
- 語学力、読解力、プレゼンテーション能力
- AI の領域
- 今でしたら AI と DX の基礎知識
- わからない
- 情報科学
- 当方は、卒業してすぐはゼネコンに入社し、希望せざるも GOLF 場の経営の為に出向したが、５２歳に転職した。その後は化粧品工場の経営に従事し、中小企業であるため様々な事柄をせざるを得ず、とても苦労した。望むべくは技術者として経営に参画する為の領域を、例えば B/S と PL

の根本ぐらいは学ぶ必要があると思われる。

- 全ての学科に対して基礎力を十分に叩き込んでほしい。例えば機械における「摩擦」とは何ぞやなどなど
- この先､無くならないジャンルの技術を身につけると定年が 70 歳時代になっても職に困らない。自然エネルギー関連､工作機械､工場設備設計などに関連した技術は息が長いと思います｡あと、管理職になっても一般職と同じ事が出来るようにしておくと、何かと困らないのでいざという時のために常に技術を身につける事を忘れない事ですね。
- 組織をマネジメントするマネジメント知識と能力。これが、人をまとめ、技術開発や課題解決スキルに寄与する。
- 視野を広げる（他県、他国、他分野、他宗教、異文化に興味を持つ）事。それ以前に自身の強み・専門性を伸ばし・深彫りする事（学生レベルで）
- AI を活用できる能力、実験を計画する能力
- 地球環境問題への対応能力、伝統技能や基礎技術の理解と継承
- インフラエンジニアが不足気味。基礎だけでも強電や生産技術(工場実習で、やった鋳造等など)のみにつけていると強みになる
- 電気主任技術者に求められる高い電圧階級の技術領域
- 電気主任技術者や電気工事士の有資格者が不足し始めていると言われています。大学への編入学後に修士課程を修了してスーパーゼネコンに勤務している後輩もいます。かつて電気工事に携わっていた年配の電気技術者は、第一種電気主任技術者、1 級電気工事施工管理技士、技術士（電気電子部門）資格を取得されて定年後も活躍されていました。在学中の早期に入門クラスである第三種電気主任技術者や 2 級電気工事施工管理技士補資格を取得できる教育が可能であれば、4 年生大学との教育の差別化ができるかもしれないと考えています。
- 大学生とは異なり、知識だけでなく自ら手が動かすことができる実践力を身に着けることを期待します。
- 専門知識を土台に時代にマッチした応用力が発揮できること。
- 社会が望み・求める技術の習得を期待します。
- 特にありません。
- 地球温暖化対策、食料自給率向上対策
- AI、IoT を活用できる力
- 環境技術
- 専門的な深い知識、研究者としての能力は大学に任せて、現場を管理する知識や能力を養成し、合わせて経営にも関わる法律や経済などの幅広い知識を養成してほしい。
- 環境管理
- ①AI､データサイエンス､プログラミングなどの分野は､どの産業分野でも必要とされますので、教育、実習を充実されるとよいかもしれません（すでに実施されていると思いますが） ②電力エネルギー分野は社会インフラに欠かせません。関連する必修科目は継続することが必要です。
- ビッグデータ解析、スマートファクトリー、サスティナブルビジネス、安全・防災・環境
- 官公庁等のシステム開発支援（各自治体のシステム基幹が統一されたり最適化されることは、巡

って道民、市民に有益となるから）

- 農業分野の労働力不足を軽減するための安価で、使い勝手の良い技術の開発。
- ヒューマンサイエンス
- 企業に入社後は、本人の能力に応じて希望する職域には中々就けない事も有るため、浅く広く知識・視野を広げて、明るく楽しく活動出来る能力も大事かと思います。人間力・活動力の育成も重要視して頂きたい。
- ほホタテの貝殻の有効活用
- 基礎工学と最新技術動向
- SIer として即戦力になれる人材を養えば良いと思う。IT の知識はもちろん大事だが何よりもコミュニケーション能力が重要となる。
- パソコンソフトの Excel や Word。根本だけど意外と身についてなかった。
- ハードウェアと AI の融合
- 本科卒の場合、基礎的な技術・知識に裏付けられた論理的思考、納得いくまでものごとを探求する力、国内外の人間と協力を惜しまない積極性とコミュ力。ただし 5 年間でこれらすべてを焦って知識のみを詰め込み教育するのではなく、あくまで基礎力、人間力として身についている人間が期待される。
- 機械に強い旭川高専の特徴が活かせるような技術領域を期待。セキュリティに関してはすべての学生に基礎を学んでほしい。
- 特に無し
- 会社の業務改善ツールとして、WEB 上にあるサーバーでデータベースの管理・ユーザー同士の共有ができるクラウド型サービスについて基礎を学ぶ。
- ネットワークやそれに付随するセキュリティ（暗号化等）に関する専門的な知識。FA 業界では PLC や周辺機器をネットワークでつなぎデータ収集するのが当たり前となってきているがセキュリティに関する知識が甘く簡単に入りこまれてしまう。それにより関連会社を含むすべての設備停止に追い込まれる事態に発展することがあるため、ネットワークの知識やセキュリティの知識を用いたシステム構築が急務となっている。
- 半導体関連
- DX、AI の活用する技術力
- 環境問題改善の基礎学力
- 地域産業の発展に寄与する学び"
- 5G/6G に代表される無線通信の基礎技術
- 機械学習、エネルギー領域
- AI の分野(研究や民間での業務で AI を使う上で基礎を築く必要がある)。半導体工学(ラピダスができるので、需要は増すと思う）
- 電子デバイス(私が在学中はバイポーラトランジスタを詳しく勉強していたが、MOSFET の方を詳しく勉強する方がいいと思う)"
- 宇宙関係
- 専門知識以外にも、Excel、パワポなどの知識

- 危険物取扱者試験、消防設備士試験、電気工事士、ボイラー技士などの資格取得
- 核融合
- 様々な分野に対応できる幅広い見識。一般教養かつ常識、社会通念を理解する機会、場面。
- 特にありません。
- 知的財産権の基礎知識
- 半導体に関わる全ての領域
- 仕事でエクセルをよく使用するので、そこを強化できればいいと思いました。
- 他大学や内部進学者と比べて，英語力の差を大学院に進学して大きく感じました．また，研究を進めていく上で論文を自身で理解する力も必要だと感じます．報告書をまとめる際は，日本語が変であると指摘されることもあります．どれも，自然あるいは自身で努力をして身につける人もいると思いますが，高専生は怠けがちです．どうにか先生やカリキュラムを駆使してこのような力が身につくとより良いと思います．
- 危険物取扱甲種獲得学生のみ卒業可能
- データサイエンス、バイオインフォマティクス、複数領域の融合分野
- 各工場の管理者となれるような資格取得、工場で法律上必須とされるような資格等
- 物質化学科卒業生でも工場勤務になる人は多く居るはず。そういった人向けに工具の使い方、危険予知 KYT など軽く紹介しておくと工場で働くイメージ等つきやすいかもしれないです。
- 分野外の基礎技術習得（化学系の方が土木系の技術を習得するなど）
- 基礎数学力は必須。
- ゼロから一を生み出すモノづくり精神を継承し、化学であっても、ai や 3D プリンターが活用できる教育を入れて、地域課題解決に貢献できるようになってください。
- 英語能力、論理的思考力
- 若い皆さんを応援します。頑張ってください。でも健康第一ですよ。プライベートも大事にしてくださいね。
- 自ら問題を発見、抽出し、解決に向けて考え、行動する能力。そしてそれらを継続する能力。
- 専門分野を突き詰めていくのもよし。広く浅くでもよし。コミュ力はごく一般的なレベルで問題なしです
- 学科を問わず，AI・数理データ・IoT を活用できる力，ならびに語学力（英語ほか）の習得が肝要と考えます。また，特定の技術領域よりも，専門教科全般における骨太な基礎力が重要と考えます。
- 半導体製造、DX を中心とした産業に関する素養を高める
- 実習などの実践力を身につけたことが、業務で大変役立っています。今後も重視頂きたいです。
- 人に優しい生産やライフサイクルを考慮した製品などを期待する
- 生産技術研究開発
- 基礎的なプログラミング技術、Web,DB 領域でのセキュリティ知識
- 課題解決能力、自立的行動力、チャレンジ意欲
- 専門的な技術領域は勿論ですが、英語は特に重要だと今更ながらに思いました。。。
- 福祉

- 特記無いが、PC の基本的な操作およびトラブルシューティングについては必須と思われる。
- 工場で勤務する上で必要となる熱力学や電気関係の知識を全学科で履修するべき。
- （化学科も）ビッグデータ、AI、IoT、DX のような情報社会における知識をフル活用した複合的な研究開発。
- 農業・畜産分野における工学など北海道の地理を活かせる技術領域
- コミュニケーション能力
- 高専で学んだ専門知識は仕事でも役に立っていると感じますので、高専の特徴である専門的な分野を深めることは継続してできると良いと思います。

12. 旭川高専に対するご意見、ご提案等があればご記入ください。

- スポーツにも力を入れる
- 専科大学への名称変更
- 旭川高専の強み(独自の教育領域)を確立してほしい。大卒の中に入って輝く為には、技術的強み、自己研鑽を継続する力が必要。高専の 5 年間で身に付けられる様に考えて欲しいと思います。
- 開拓者精神旺盛でした！
- 産学官による研究開発を提案する。行政機関の情報収集、企業が抱える問題と課題、企業の機械を提供、または借用してソフト開発の実用化を目指すことを提案する。
- 未来に向け、やる気と意欲を持った人材の育成をお願い致します。
- 卒業後 61 年経過未だ機械設計従事、今社会役立つもの造り設計、そこで何時も思いだすのは旭川高専で学んだ機械工学の勉学他精神の支柱「ものづくり技術者のリーダーになれ」高等教育学校高専学生時代校規「学生たれ」自分で判断行動する様に言われ事です。精神論論ずると敬遠されるがこれが大切 !! 高専の特徴は全寮制度と思う。
- 現在は卒業した学科とは関係のない仕事をしています。しかし、在学中はかけがえのない時間を過ごすことができました。私にとって自慢の学校です。今後も人を育てる学校であり続けてほしいと思います。
- 色々な個性の人達とコミュニケーションをしながら仕事をするようになるわけで　人と関わること　その中で信頼されること　良き友をもつことを心がけるよう指導者のかたが経験を語っていく校風を大切にしていただきたい
- 楽しい青春の 5 年間を送ることができ、感謝しています。勉強も大事だけれど、クラスのならず他学科、他学年との繋がり、部活動、教官との会話、全てが大切。長い人生の基礎になると思います。全ての学生が楽しいと思える学校生活が送れますように。
- 学力向上して欲しい。自分が出来なかった為
- 多様性を活かした、優秀人材の輩出を今後も期待しています
- 少子化に伴い入学生の減少が気になります。受験生やその保護者になぜ高専に入学しないのかアンケートを取るなどして、高専の改善すべき点やニーズを把握して、改善に繋げてください。道立高校と違って高専の教職員は井の中の蛙なりがちなので、定期的にアンケート調査などで世間での高専に対するイメージや思っていることを把握してください。
- 今後共、末永く存続することを願っております。
- 人生を生きぬ人間力を身に付ける事
- メンタルタフネス、ストレス耐性 への取り組みも重要ではないでしょうか。
- 卒業生がより道内で活躍出来るような環境になるように努力してほしい
- 知的財産に関する知識・情報・活用力の理解と実践
- 起業の方法論
- 現代は頭で考える若手が多いので、これからも高専生の強みだとおもっている手が動かせる学生を育てて欲しい
- 特になし

- 旭川高専は既に実践力と創造性を身に付けられる環境やカリキュラムを十分に提供できている学校である。学生に座学ばかりの学校と思われたくないのは共感するが、この長所をより強くするためにも土台となる理数、工学基礎や一般教養を伸ばすことに注力するのも一考してみては。
- 様々な業務に対して、粘り強くコツコツと仕事ができるのは高専生ならではと思う。日本の製造業は厳しい状況に置かれているが、今後も素晴らしい人材の育成に期待したい。
- テクノセンターはありますが、企業側からすると何ができるのかいまいちわからない。研究室でどのような分野が強いかなど発信力強化が必要かともう。
- 人脈の繋がりに感謝
- 旭川高専の、立地そのものが貴重だと気付きました。道北および北海道の子供達が学舎として選ぶため、そこに存在し続けてください。
- 日々ご尽力いただきありがとうございます。引き続き、活発な卒業生を送り出してください。
- 昔、旭川高専は学園紛争で無駄な時間を過ごしてしまった。反面、社会人として常に関心を持って生きる大切さを知った。20 歳で卒業し、社会に出て貢献する喜びと誇りを持って、退職するまで頑張って欲しい。
- 科学技術は流行り廃りが著しい。一時の流行りに惑わされず，本来の高専に求められている専門科目の基礎知識をしっかり身に着けさせられる教育をお願いしたい。あくまでも高専という学校種であり，大学とは異なる使命があることを忘れないでいただきたい。たとえば，複合・融合領域は自身の専門知識を十分に身に着けてから行われるべきであり，高専本科段階では不要なものが多いであろう。また，AI・数理データ・IoT・サイバーセキュリティは，エンジニアであればどの分野でも必要不可欠であるため，一般科目として低学年から教育していくべきと考える。
- 新分野（ＡＩ.サイバー）などへの対応力
- ロボコンでは全国的に知られているが、社会に誇れる分野が欲しい。
- 英語も使いますよ。
- 生徒の語学力を向上させる仕組み作りが当時は出来ていなかったと思います。国内の製造系事業は革新的分野を除きほぼ成熟しており大幅な成長は見込めず、今後は海外でのビジネスがメインになると予想されます。高専では語学を学んでものアウトプットする場がない為、身につきません。今後は付加価値として語学力のあるエンジニアを育成するプログラムを検討導入されてはいかがでしょうか。重宝されます。
- 多くの旭川高専生が日本中で活躍しておりますので、どうぞ自信を持って社会に飛び出してほしいと思います。
- 企業人として実感したのは、ビジネス的発想、判断が弱い点。技術的な発想、判断では満足しています
- 社会にでた後の高専卒業生の活躍は、日本の技術力向上に大きく寄与していると実感します。これからも優秀な人材の輩出に期待します。他大学に負けない企業からの魅力創生
- 特にない
- 上記の通りである。
- 企業においてプレゼンスを高められるような校風に
- 今後ともロボコンでの力を発揮してください。非常にインパクトがあります。

- 私が居た頃は正直言って工作機械などは時代遅れの物が殆どで社会に出てからのギャップに苦しみました。その頃の機械は流石に入れ替わっているようですが、ある程度時代に沿った物を導入していって欲しいです。ただ、高専を卒業して工作機を触るかというとほとんどの人は触らないでしょう。設計の時にどんな機械でどんな加工ができるかのイメージに役立つ感じだと思います。あと、機構、力学などの授業を受けてても何に役立つのかイマイチ分からないままやっているので頭に入りにくいと思います。実際に機械設計を実践するような課題があると面白いと思います。機械設計、基板設計から部品加工まで学校内で出来る環境があるんだから学部を跨いで製品を完成させるのを課題として取り入れると社会に出てからのものづくりのイメージがしやすいと思います。
- 高専ならではの良さがあるのかもしれません。大学入学のための受験勉強に押しつぶされない点、若いときから技術が身に付き深く理解できる点。やる気ある人には、どんどん進める環境が提供されると良いと思います。
- 技術、コミュ力、リーダー、粘り強さが突出しているのが大学卒採用するのと違い、求める人材像
- 世の中に出てみると（最近はどうか不明ながら、私の時代は一般的に）高専生は、余裕能力のわりに主張する事、論理的に意見を自ら発信する事が少ない（下手な）印象がある。この能力は経験による裏付け（自信を持つ事）が必要とも思うが、自ら発信する力（発言力）も大事だと思う。
- 好奇心を持続させる教育をお願いいたします。色々な事に挑戦する環境を考えてください
- 母校の存在と曾てお世話になった教職員のみなさまへの感謝の念が、年齢を重ねる毎に増してきます。
- 電気主任技術者の認定校に復活してほしい
- 専門分野の知識と実践力、そして語学力(特に英語)に力を入れていただきたい。
- 令和 5 年度は第二外国語として韓国語を学習されていますが、私の在学当時はドイツ語とロシア語でした。最北に位置する高専として地域の特性を前面に出し、全国から入学希望者が集まる学校になることを願っています。
- ものづくり日本の中核技術者として広い視野を持った人材の育成を継続願う。
- 今一度高専設立の精神に立ち返り、世間で囁かれる様な、大学進学への抜け道には決してならない事を望みます。世の中の変革が大きく大変でしょうが、今後共教職員及び関係する皆様のご活躍を祈念しております。
- 特にありません。
- 農業分野を専攻する学科があったら良い
- コミュニケーション能力の中でも特にビジネスマナーを学生のうちに身につけると良いと思います。
- 機械工学科を卒業したものの、総合建設業の中の土木部に就職したため、機械工学に関する専門知識を活用できたのは応用力学くらいなものでした。33 年勤めた建設業を退職して ISO の審査員になりましたが、相手とのコミュニケーション能力は学校で学んだと言うよりは実践で身についたものと考えられます。その様な経歴ですから、これまでの回答について学校が期待する内容と必ずしも一致するものではなく、統計からは除外するのが妥当ではないでしょうか。なお、大

手製造業に就職した同級生を見ていると、日本の平和や原子力政策について政府の主張を鵜呑みにしている例が多く見られ、憲法が規定している武力放棄や、未だ最終処分場さえ決まらない原子力政策等について、未来の日本の有り様を見据えた論理的思考を構築する力を身につけることが求められます。

- 上記 7 の回答のとおり、旭川高専にも期待したい。
- 英語コミュニケーションは必須と思います。
- 時代の変化に伴って、その最先端技術に対応したスキルと、コミュニケーション能力に秀でた人材の育成を期待しています。結局、考えをキチンと伝えられなければ、現場では仕事にならないので。
- 今は海外からの留学生も増えていて、海外の方との交流も物おじしないで出来るものと思います。島国根性を持たないような、視野の広い教育を推進して頂ければと思います。
- 特にない
- SNS が普及し、デジタル化が進んできている現在では、著作権・肖像権・デマ情報に対して騙されない力は必要になってくるのではないかと思います。エンジニアを目指すなら技術よりも必要になるかもしれません。
- 電気工学科ながら実習工場での機械工作の実習が一通りできたことはその後の財産となった。また、教員と学生の距離の近さも貴重なものであったと思う。特に山上技官から教わった実際の回路製作は正規の教育というよりはサークル活動で先輩から教わった形に近いもので、個人のスキル形成には極めて重要であった。そうした雰囲気の場を継続してほしい。
- 特に無し
- 問題意識を持たせたり、気づきを促すには、そのテーマで社会人に講演してもらうのも良いと思う。また、何か外部との交流会も良いと思う。
- ロボコン優勝してください。
- 少子化も加速して、生徒の確保難しいとは思いますが、頑張って欲しい。
- 基礎学力をしっかり身に付けさせて下さい。それがキチンと備わっていなければ応用も出来ない
- 幸あれ。
- 専攻科で大卒が取れることをもっと PR すべき。室蘭工大並の就職実績を作るべき。我々の世代としては、旭川西高よりレベルが落ちてると聞いて残念に思う。
- 日本文化論などの科目はほんとに必要なのだろうか。5 年生の就職前大切な時期に、あのような科目を行う必要が全く感じられない。
- 大学の工学部よりも専門の講義と実習を行なっているので、資格取得に取り組む講義、補習などを行い、就職先で活躍してほしい。
- 近年大きな企業においては DX 化が勧められているものと思いますので、どの学科においても、DX の事例について学ぶ機会・触れる機会が多くとれた方が良いと思います。
- 座学で学ぶことも非常に良いと思います。ただし、難しいことは重々承知ですが、実験等の実際に手を動かす授業の方が圧倒的に頭に残るので、実際的な授業を増やすことは、学生にとってより良い経験になると思っております。
- 外部の方による講義

- リモートワークで旭川に戻る機会が増えたので、民間で経験した知見を母校や旭川市に恩返しできるような機会を作れると嬉しいです。
- 高専を卒業して 10 年以上経ちますが、高専時代に培ったこと（知識だけでなく、自ら検証・実践する力やコミュニケーション力）は大学進学後や就職後に他者から評価して頂けることが多く、改めて旭川高専で学ぶことができてよかったと感じています。講義の他にも学生指導や部活動の顧問、地域への貢献など業務は多岐に渡り、学校を運営をしていく上でご苦労も多いと思いますが、これからも多くの学生が高専で学べてよかったと思えるよう、まず教える側の先生が研究を持続できるように、業務負担が大きくなり過ぎないことを願います。
- 知識の習得のみならず、実際の職場でも活かせる技術の習得をお願いしたいです
- 微分・積分を重点的に行っているが、 確率統計もしっかりやるべきだと思います。
- 特にありません。
- 高専で学べたことは，大変有意義だと感じています．一方で，教員の方々には多くの迷惑をかけてしまいました．高専の研究力を底上げするには，教員の方々の研究以外の仕事の負担を軽減させる必要があると思います．聞きたいことが聞けない．もっとやりたいのにできないと学生が感じないような研究生活を送れると良いのではないでしょうか.
- 旭川高専行ってよかったです。大学でだいぶ楽してます
- 楽しい学校でした
- PBL を授業だけでなく部活でできれば、主体的に動きやすいかとおもいます
- 高専出身だと言えば、優秀だと言われることがたくさんあります。しかし、一昔前の人たちは優秀だと思いますが、わたしの世代近辺は普通校出身の人と比べて秀でてる部分が少なくなってきているような気がします。
- いろいろな企業に卒業生がいるので実業務についてもっと具体的なアンケートなどしてもらった方が、本科からの就職の役に立つと思います。
- 特になし。今後も素敵な人材を育成して下さい。"
- 高専は、他大学と比較して学費が安く、手厚くかつ充実した教育が受けられる所が長所だと存じます。
- 地域課題解決の教育と研究を充実させて、スタートアップする学生を輩出してください。
- たまに実家に帰るときにふらっと高専に入りたい衝動に駆られますが、なかなか勇気が出ないものです。
- Excel、PowerPoint、Word に関連する授業を行う。
- 知識はしっかり学べていると思うが、社会に出てからの必要なコミュニケーション能力や積極性身につけて欲しい
- 地元企業にて働く者として経験をお伝えしたい。どうしても金銭面条件を見ると、道内企業は見劣りがする思うが、物価の違い、環境の違い等を考えると、決して本州企業に劣るところだけでは無い。実際同期の中でも一度本州企業に就職した者も、U ターンで戻って来ている人間も多く、地元や道内企業への就職も検討に加えていただければと思います。
- 個人的な偏見ですが、工業高校生と比較するとさすが高専という場面は多いです。旭川高専に限らず、他の地域の高専卒の方々と仕事を共にすることがありますがなぜか仲間意識というか、親

近感みたいなものが芽生えます。地場では能力を発揮できるような業種は少ないと思いますが、今後も優秀な学生を育ててください。

- 現在，研究職に就いていますが，大学学部在籍時よりも高専在籍時に身につけた専門教科の知識全般が非常に役に立っていることを実感しています。目新しい技術領域へと新規開拓する姿勢も必要かとは思いますが，まずは泥臭くとも基礎知識習得の徹底があるべきというのが個人的意見です。(大学の授業に比して，専門知識を徹底して身につける仕組みがそろっていることが高専の強みではないかと思います。)
- 卒業生とのコネクションを保つ仕組みづくりが重要かと思います。産業界とのつながりや高専の活動を卒業生にも積極的にアピールして欲しい
- 英語については必要不可欠なもので、大きな企業に所属すると逃げられないものになるため、リスニングとスピーキングの能力が向上するような教育が受けられれば、さらに高専卒業生の需要が上がります。是非ご検討ください。
- ロボコン頑張って下さい。両国で応援してます。
- 創造性を発揮するような課題(特定の課題を解決する創作物)はものづくりの楽しさが分かって良いと思う
- 卒業してから、高専でよかったと痛感することばかりです。技術者の糧となる5年間でしたので、今後も将来の技術者教育に期待しております。
- 論理的思考と技術者倫理の教育に注力いただきたい。専門知識が浅くとも、その2つがあれば今後大きな事故に合う機会は激減する。
- 今後もどうぞよろしくお願い致します。
- 卒業生の一員として以下の意見・提案をさせていただきます。・分析機器などに早い段階から実際に触れることができた経験は、私の学びにとても有益でした。この取り組みは是非続けていただきたいと思います。・研究活動で得た経験は、卒業後の実生活でも大きく役立っています。そのため、卒業研究よりも早い段階で学生が研究に参加できる仕組みを検討していただけるとありがたいです。・他の学科の学生との交流は、新しいアイデアの創出や多角的な視点の獲得につながると感じます。授業などの中での交流の機会を増やしていただけると良いと思います。
- 今後も社会人として即戦力になれるような人材を育成してほしい
- 特にありません。
- 特にありません。感謝の気持しかございません。

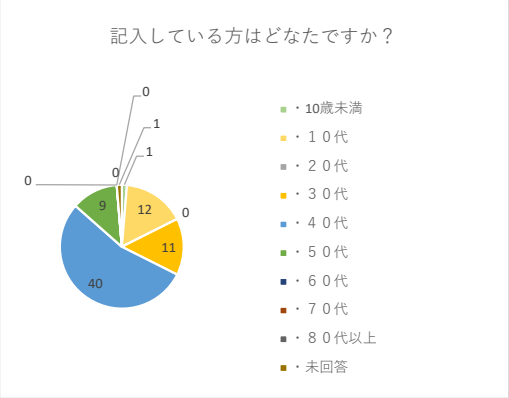
出典：2023年度旭川高専卒業生・修了生アンケート

【資料8】

「出張オープンキャンパス（6月24日(土)，25日(日)開催）」アンケート等集計結果

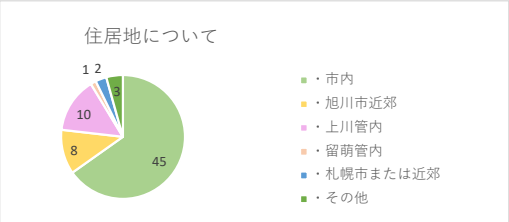
1.記入している方はどなたですか。

・10歳未満	1
・１０代	12
・２０代	0
・３０代	11
・４０代	40
・５０代	9
・６０代	0
・７０代	0
・８０代以上	0
・未回答	1



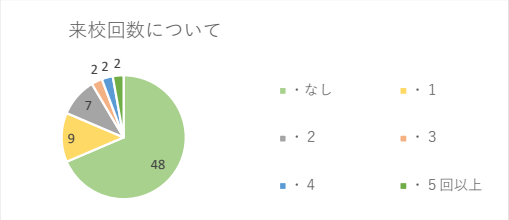
2．住居地

・市内	45
・旭川市近郊	8
・上川管内	10
・留萌管内	1
・札幌市または近郊	2
・その他	3



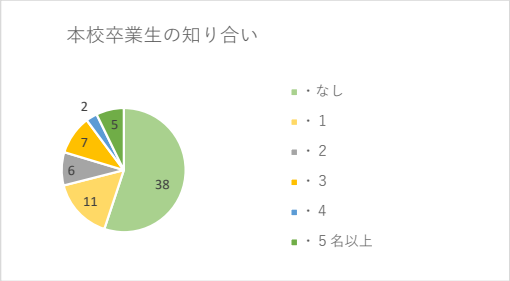
3．本校来校回数

・なし	48
・1	9
・2	7
・3	2
・4	2
・５回以上	2



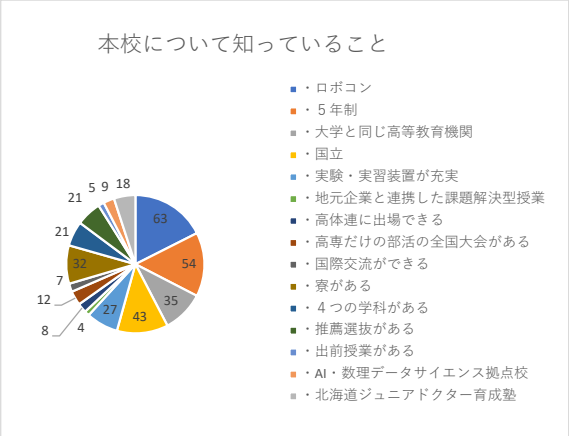
4．本校卒業生の知り合い数

・なし	38
・1	11
・2	6
・3	7
・4	2
・5名以上	5



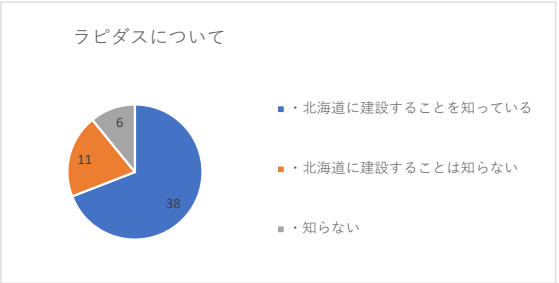
5．本校について知っている項目（複数回答）

・ロボコン	63
・5年制	54
・大学と同じ高等教育機関	35
・国立	43
・実験・実習装置が充実	27
・地元企業と連携した課題解決型授業	4
・高体連に出場できる	8
・高専だけの部活の全国大会がある	12
・国際交流ができる	7
・寮がある	32
・4つの学科がある	21
・推薦選抜がある	21
・出前授業がある	5
・AI・数理データサイエンス拠点校	9
・北海道ジュニアドクター育成塾	18



6．ラピダス関係

・北海道に建設することを知っている	38
・北海道に建設することは知らない	11
・知らない	6



7．今後重要になると思われる知識・技術・能力

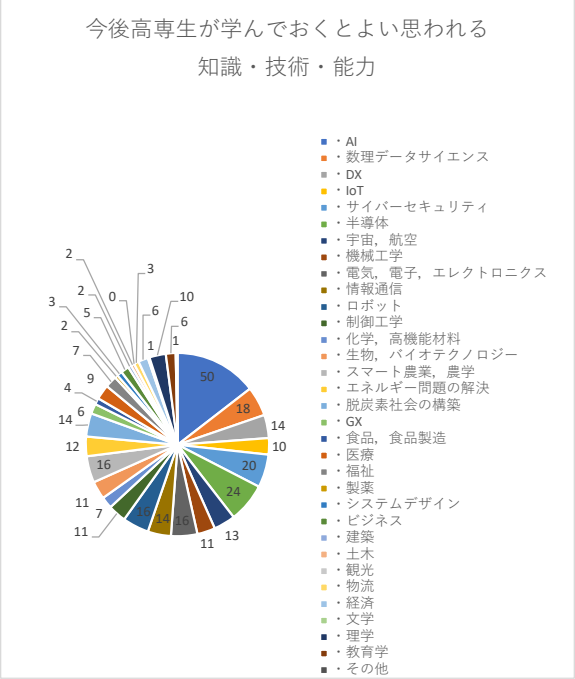
・AI	57
・数理データサイエンス	12
・DX	15
・IoT	10
・サイバーセキュリティ	21
・半導体	23
・宇宙，航空	13
・機械工学	9
・電気，電子，エレクトロニクス	14
・情報通信	19
・ロボット	21
・制御工学	9
・化学，高機能材料	10
・生物，バイオテクノロジー	12
・スマート農業，農学	25
・エネルギー問題の解決	17
・脱炭素社会の構築	14
・GX	5
・食品，食品製造	7
・医療	18
・福祉	11
・製薬	7
・システムデザイン	5
・ビジネス	6



・建築	5
・土木	3
・観光	2
・物流	10
・経済	11
・文学	1
・理学	5
・教育学	10
・その他	0

8. 今後高専の学生が学んでおくとよいと思われる知識・技術・能力

・AI	50
・数理データサイエンス	18
・DX	14
・IoT	10
・サイバーセキュリティ	20
・半導体	24
・宇宙，航空	13
・機械工学	11
・電気，電子，エレクトロニクス	16
・情報通信	14
・ロボット	16
・制御工学	11
・化学，高機能材料	7
・生物，バイオテクノロジー	11
・スマート農業，農学	16
・エネルギー問題の解決	12
・脱炭素社会の構築	14
・GX	6
・食品，食品製造	4
・医療	9
・福祉	7
・製薬	2
・システムデザイン	3
・ビジネス	5
・建築	2
・土木	2
・観光	0
・物流	3
・経済	6
・文学	1
・理学	10
・教育学	6
・その他	1



出典：2023年旭川高専出張オープンキャンパスアンケート

【資料9】

2022年

旭川高専　卒業生・修了生　就職先アンケート調査

85	09:28	アクティブ
応答	完了するのにかかった平均時間	状態

1. 会社名をご教示ください。

85
応答

最新の回答
"東日本高速道路株式会社（NEXCO東日本）"
"三浦工業株式会社"
"日本ゼオン株式会社川崎工場"

2回答者 (**2**%) この質問に **北海道旅客鉄道**回答しました。



2. 貴社には、旭川高専の卒業生または専攻科修了生が在籍していますか。

はい	70
いいえ	15



3. 項目3から11は旭川高専の卒業生・修了生が在学中に身につけた知識や能力に関する質問です。
旭川高専の卒業生・修了生は【専門知識と専門的な視野】を

十分身につけていた	24
身につけていた	42
どちらともいえない	4
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



4. 旭川高専の卒業生・修了生は【専門分野における実践力と創造性】を

十分身につけていた	24
身につけていた	41
どちらともいえない	5
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



5. 旭川高専の卒業生・修了生は【複合・融合領域に対応する力】を

十分身につけていた	19
身につけていた	34
どちらともいえない	17
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



6. 旭川高専の卒業生・修了生は【課題発見と解決の能力 】を

十分身につけていた	27
身につけていた	35
どちらともいえない	7
あまり見につけていなかった	1
全く身につけていなかった	0



7. 旭川高専の卒業生・修了生は【日本語によるコミュニケーション能力】を

十分身につけていた	36
身につけていた	30
どちらともいえない	2
あまり見につけていなかった	2
全く身につけていなかった	0



8. 旭川高専の卒業生・修了生は【外国語によるコミュニケーション能力と国際的視野】を

十分身につけていた	4
身につけていた	8
どちらともいえない	50
あまり見につけていなかった	8
全く身につけていなかった	0



9. 旭川高専の卒業生・修了生は【他者と協力しながら自主的に行動する力】を

十分身につけていた	32
身につけていた	33
どちらともいえない	5
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



10. 旭川高専の卒業生・修了生は【豊かな教養と論理的思考力】を

十分身につけていた	23
身につけていた	36
どちらともいえない	11
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



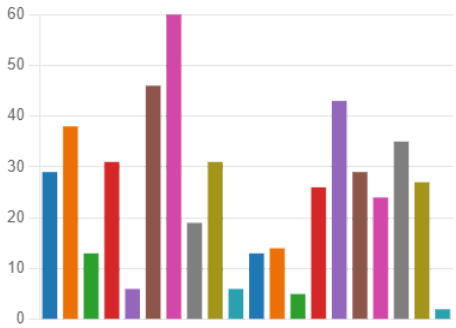
11. 旭川高専の卒業生・修了生は【継続して自己研鑽する力】を

十分身につけていた	27
身につけていた	40
どちらともいえない	3
あまり見につけていなかった	0
全く身につけていなかった	0



12. 旭川高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対して、今後より一層求める能力・技能を選んでください。（複数回答可）

専門知識と専門的な視野	29
専門分野における実践力と創造性	38
複合・融合領域に対応する力	13
日本語によるコミュニケーション能力	31
外国語によるコミュニケーション能力...	6
課題発見と解決の能力	46
他者と協働しながら自主的に行動...	60
豊かな教養と論理的思考力	19
継続して自己研鑽する力	31
一般教養	6
プレゼンテーション能力	13
ＩＣＴに関する能力	14
企画・開発力	5
リーダーシップ	26
チャレンジ精神	43
行動力	29
社交性	24
誠実さ	35
忍耐強さ	27
その他	2



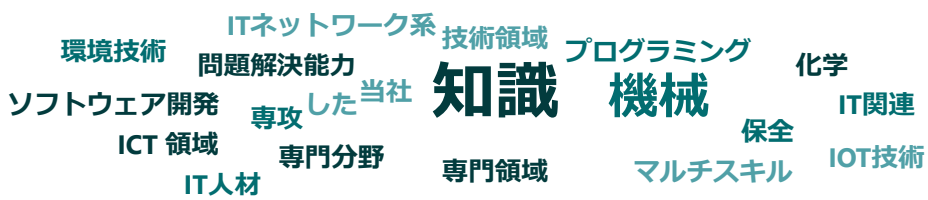
13. 今後、旭川高専の本科卒業生・専攻科修了生に期待する技術領域を教えてください（複数記載可）。

45
応答

最新の回答
"専攻している分野の基礎的な知識の習得"
"IOT技術"
"化学工学に関する領域"

更新

10回答者 (**22**%) この質問に **知識**回答しました。



14. 旭川高専に対するご意見、ご提案等があればご記入ください。

34
応答

最新の回答

"令和 4 年度入社が 2 名ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。"

"真面目な人が多く知識、学力は問題無いがプレゼンだったり協業とかではコミニケー…"

"メディア総研のイベントなどを通じ御校学生と接する機会をいただいています。他にも…"

更新

5回答者 (**15**%) この質問に **機会**回答しました。



1. 会社名をご教示ください。

- 株式会社マイスターエンジニアリング
- 中部電力株式会社
- ラテラル・シンキング株式会社
- (株)橋本川島コーポレーション
- 東京食品機械株式会社
- アベテック株式会社
- 株式会社タカフジ
- 株式会社朝日工業社
- 大日精化工業株式会社
- 旭川信用金庫
- ニチレキ株式会社
- 国策機工株式会社
- コベルコソフトサービス
- 星光 PMC 株式会社
- dowa サーモテック
- パナソニックインダストリー
- 株式会社アイ・エス・ビー
- 株式会社日立ハイシステム 21
- 北海道セキスイハイム工業株式会社
- 北海道電気技術サービス株式会社
- パナソニックスイッチングテクノロジーズ株式会社
- 株式会社 ASCe
- 日信電子サービス株式会社
- 株式会社 SCREEN ホールディングス
- ファナック株式会社
- NTT 東日本-北海道
- 大塚製薬工場
- 北海道ガス
- 北海道旅客鉄道
- 三菱電機ビルソリューションズ株式会社
- (株)NHKテクノロジーズ
- 株式会社 JERA
- 山崎製パン株式会社
- 不二技研工業株式会社
- 旭川ガス株式会社
- キヤノンメディカルシステムズ株式会社

- 浜理 PFST 株式会社
- ダイキン工業株式会社
- ホクサン株式会社
- 株式会社メンバーズ
- 日本触媒
- 株式会社 RKKCS
- 出光エンジニアリング株式会社
- 株式会社日水コン
- 日東電工株式会社
- 株式会社メガテック
- DIC 株式会社
- 株式会社カネカ
- 北海道大学工学系技術センター
- 株式会社楢崎製作所
- 三浦工業株式会社
- 株式会社 NTT データ MSE
- 大旺鋼球製造株式会社
- 富士石油株式会社
- 電制コムテック株式会社
- ウナルステクノロジー株式会社
- 関西電力
- 東新工業株式会社
- 株式会社高橋商事
- 日立ビルシステム
- タマディック
- セイコーエプソン株式会社
- JR 東日本メカトロサービス
- シンセメック株式会社
- 小松開発工業
- 三建設備工業株式会社
- 富士古河E＆C株式会社
- 日本原子力発電株式会社
- 株式会社日本製鋼所
- つうけん
- 日本貨物鉄道株式会社(JR 貨物)
- コスモ石油(株)千葉製油所
- 東テク北海道株式会社
- デジタルテクノロジー株式会社

- セッツカートン株式会社
- ㈱北海道 LIXIL 製作所
- 東レ株式会社
- 北海道旅客鉄道株式会社
- J-POWER ジェネレーションサービス株式会社
- 株式会社　エクスプローラ
- 東芝プラントシステム株式会社
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- 日本ゼオン株式会社川崎工場
- 三浦工業株式会社
- 東日本高速道路株式会社(NEXCO 東日本)

13. 今後、旭川高専の本科卒業生・専攻科修了生に期待する技術領域を教えてください(複数記載可)。

- ソフトウェア開発に要する技能
- ICT
- 期待通り活躍いただいています。
- 環境技術
- 専門分野の知識
- プログラミングやサーバー技術
- ICT
- 機械・電気的知識
- 時代に即した最先端技術
- データサイエンス領域は、ニーズが高いと感じています
- 電気技術者として顧客の問題解決能力(開発・設計分野)
- 特にありません
- 特に、何とはなく、積極的に新技術に向かう気持ちをお願いします
- 放送通信、情報工学
- 機械工学、電気電子工学
- 機電系エンジニアリング(保全、企画開発)の能力
- システム構築能力。20 代は機械、電気の専門知識。30 代になったら、機械、電気両方。40 代は装置全体。
- 物質科学
- マルチタスクとチームで仕事をすることを求められるのが社会人ですので、シングルスキルではシステム開発の中核を担っていくことはできません。技術力だけはなくコミュニケーションや課題解決力・創造

的思考など他者との共有や経験値から得られるものは多くありますので、いろんな角度でマルチスキルの取り組みを意識してほしいです。

- 入社後に各分野の知識を深めていくための基礎能力
- AI やデータサイエンスの分野
- 自動制御などの省力化
- 今後、情報技術はどの分野でも必要になってくるため情報系以外の専門分野でもある程度の情報技術を身に着けているとありがたい。
- 土木施工管理技士などの資格で触れる技術的な領域、構造力学などの専門領域（数学や物理学などの基礎的学力はベースで必須として）
- 激変する技術革新の中で、設備保全、改善にかかる前向きな改善提案
- 当社では現在 DX にも力を入れておりますが、IT 人材や情報系学科を卒業された社員少ないため、その方面での技術を期待しております。
- 電気・電子およびソフトウェア技術
- プログラミングスキル
- 機械、電子工学、建築、今後当社としても事業拡大していく IoT 分野も専攻にも期待大
- マルチスキル。専門領域だけにとどまらず、専門外分野の基礎知識も身につけているとベスト
- 機械、電気、情報の領域は今後も変わらず当社の重点領域となります。
- 機械、電気に関する知識、技術
- 空調、衛生設備に関する知識及び応用
- 電気系、土木系、IT ネットワーク系
- 現状で充分満足しています
- プラントエンジニアリング分野
- プラントオペレーター分野
- ICT 領域におけるインフラの技術
- 電気。機械。情報。
- 技術領域とは異なるかもしれませんが、ご自身の知識や能力を生かして、いかに前向きに課題をクリアしていくかという問題解決能力を期待しております。（専門の技術は会社に入ってからでも学ぶ機会が沢山ございます。）
- 弊社の事業分野は多岐に渡りますので、あらゆる技術領域を期待しますが、特にグリーンイノベーション、ライブイノベーションをはじめとした成長分野で活躍できる人材および技術領域に期待しています。
- 高専で学んだ機械、電気、化学の専門知識
- IT 関連の技術。半導体技術。
- 何事にもチャレンジする気持ちが大切と考えます。
- 化学工学に関する領域
- IOT 技術
- 専攻している分野の基礎的な知識の習得

14．旭川高専に対するご意見、ご提案等があればご記入ください。

- 是非、当社へ応募して頂きたいです。
- 在籍は１名ですが、継続してがんばっています
- セミナー開催の早期化
- 本年は１名、学校推薦をいただき誠にありがとうございました。
- 特にございません。
- いつも大変お世話になっております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。
- 特にございません。今後とも宜しくお願いいたします。
- 弊社へのご応募を心よりお待ちしております。改めまして、ご挨拶に伺わせて頂きたく存じます。
- 工場見学にも例年いずれかの学科が来ていただいているほか、多くの卒業生エンジニアにご活躍頂いております。今後とも宜しくお願い致します。
- 大手企業で埋もれる危機感がある方は是非、北海道で活躍してほしい。
- 特にございません。この度は機会を頂戴しありがとうございました。
- 仕事研究セミナーに初めて参加しましたが、６名の来訪があり大変嬉しかったです。引続き宜しくお願いいたします。
- この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。このように直接学生さんにお話しできる機会を今後とも頂けると大変ありがたく存じます
- 高専や大学で働く技術職員に少しでも興味を持っていただけるとありがたい。
- 道内随一の鉄に関するものづくり都市である室蘭で自分の力を発揮したいと考える旭川高専の学生さんも多いと思っています。近年２名の旭川高専の卒業生の方を採用しましたが、残念ながらお二人とも転職されました。残念ではありますが、当方でも何がそうさせたのかを考え改善してまいりたいと思いますので、どうぞこれからも、橋梁ほか、鋼構造物に関わる仕事を主に道内でしたいとお考えの旭川高専の学生さんがおられましたら、是非ご紹介いただければと思います。また、教育面でも企業として協力できることがあればぜひ協力させてください。これからもよろしくお願いいたします。
- 今後ともよろしくお願いいたします。
- 仕事研究セミナーに参加させていただき、ありがとうございました。
- 特にありません。今後ともご興味がある学生様への紹介等ご連携させて頂けると助かります。
- 学生の皆さんは、積極性、素直さがあり好印象。真面目にコツコツ取り組んでくれそう。
- メーカーに少しでも興味ある学生さんがいましたら、是非当社のインターンシップへ参加いただけますと幸いです。
- 初めて訪問させていただきました。今後、長くお付き合いをさせていただきたく存じます
- 「自分で考え、行動する」＝「自走能力」を備えた方をお待ちしております。
- 今後ともよろしくお願い致します
- 例年弊社の採用活動にご協力いただき誠にありがとうございます。引き続き宜しくお願いします。
- インフラ領域の授業は少ないと思われるが基盤が ICT に於いていかに重要であることを学生に教えていただき専門にやっている会社がある当社を紹介してほしいです。よろしくお願いします。

- 特に意見提案等はございませんが、この度は面談の機会を頂き、誠に有難うございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- いつも大変お世話になっております。就職に関わらない部分でも、各学科の授業やイベント等に参加できる機会がありましたらぜひ連携させていただきたく存じます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
- 2023 年度入社者につきまして、貴校より非常に優秀な 2 名を推薦いただきまして、誠にありがとうございます。やはり世代の近い卒業生がいると現役の学生様も弊社への関心度が高まるかと存じます。引き続き、今後ともよろしくお願い申し上げます。
- 今後とも弊社採用にご協力をよろしくお願い致します。
- 高い学力の学生が多い学校ですが、常に基礎学力向上と論理的な考えで説明できる技術者の育成をお願い致します。
- 来年度の企業セミナーに参加したいと考えています。
- メディア総研のイベントなどを通じ御校学生と接する機会をいただいています。他にも説明会などの場があれば案内等いただければ幸いです。
- 真面目な人が多く知識、学力は問題無いがプレゼンだったり協業とかではコミニケーション能力が必要です。プロジェクトマネージャーが出来る人材に育てて下さい。
- 令和4年度入社が2名ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

2023年　卒業生・修了生　就職先アンケート結果

応答の概要　終了済み

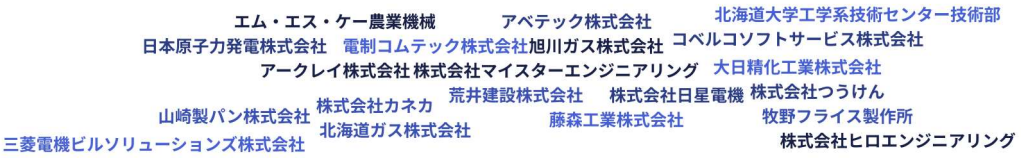
応答	平均時間	期間
146	09:55	533 日

1. 会社名をご教示ください。

146
応答

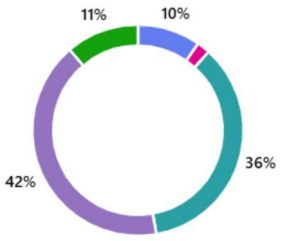
最新の回答
"J-POWERテレコミュニケーションサービス（株）"
"株式会社きんでん"
"日本オーチス･エレベータ株式会社"
...

2回答者 (1%) この質問に 株式会社マイスターエンジニアリング回答しました。



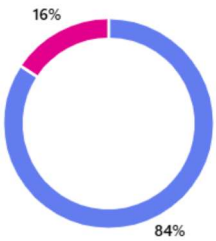
2. 貴社で旭川高専の学生を採用する際、主たる勤務地の想定をお答え下さい。（複数選択可）

旭川市内	19
道北（上川、宗谷、留萌、オホーツク）	4
北海道内	70
北海道外	82
その他	22

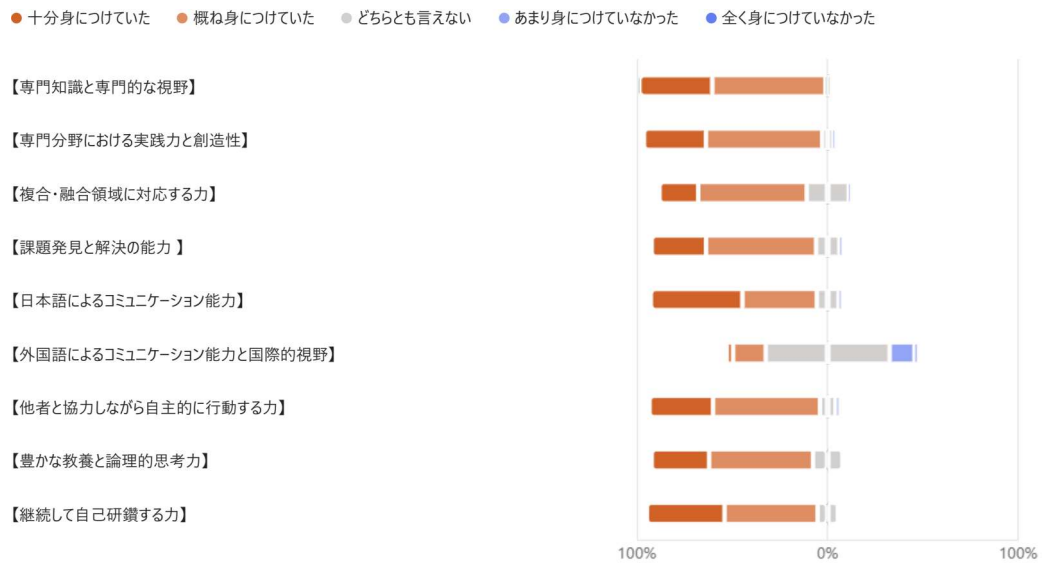


3. 貴社には、旭川高専の卒業生または専攻科修了生が在籍していますか。

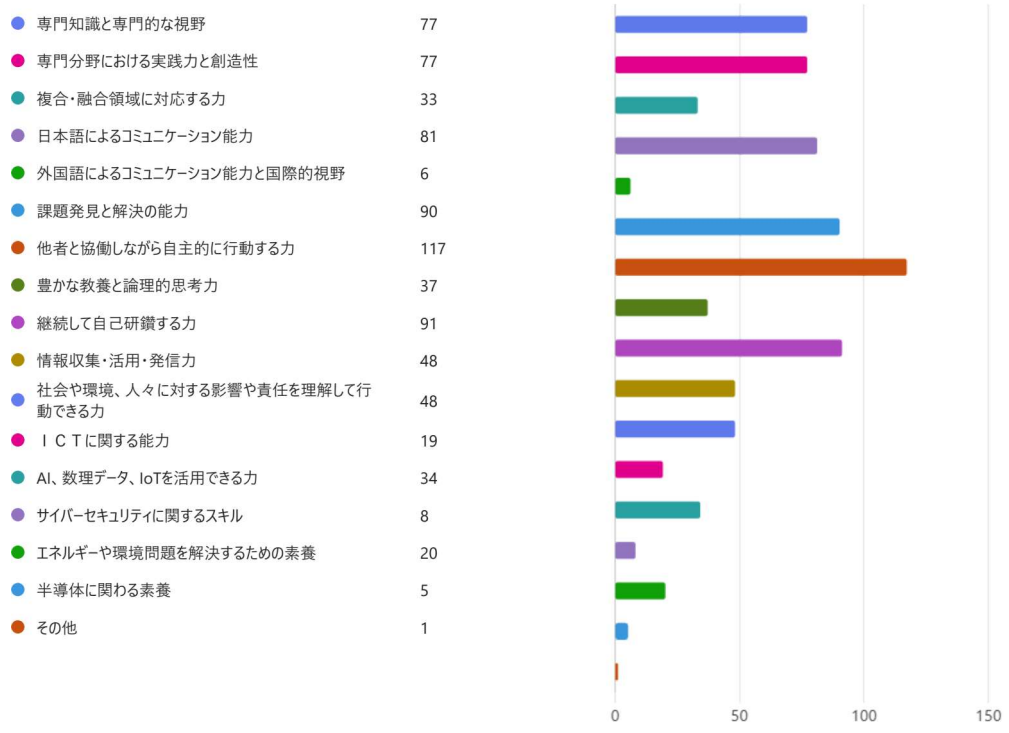
はい	123
いいえ	23



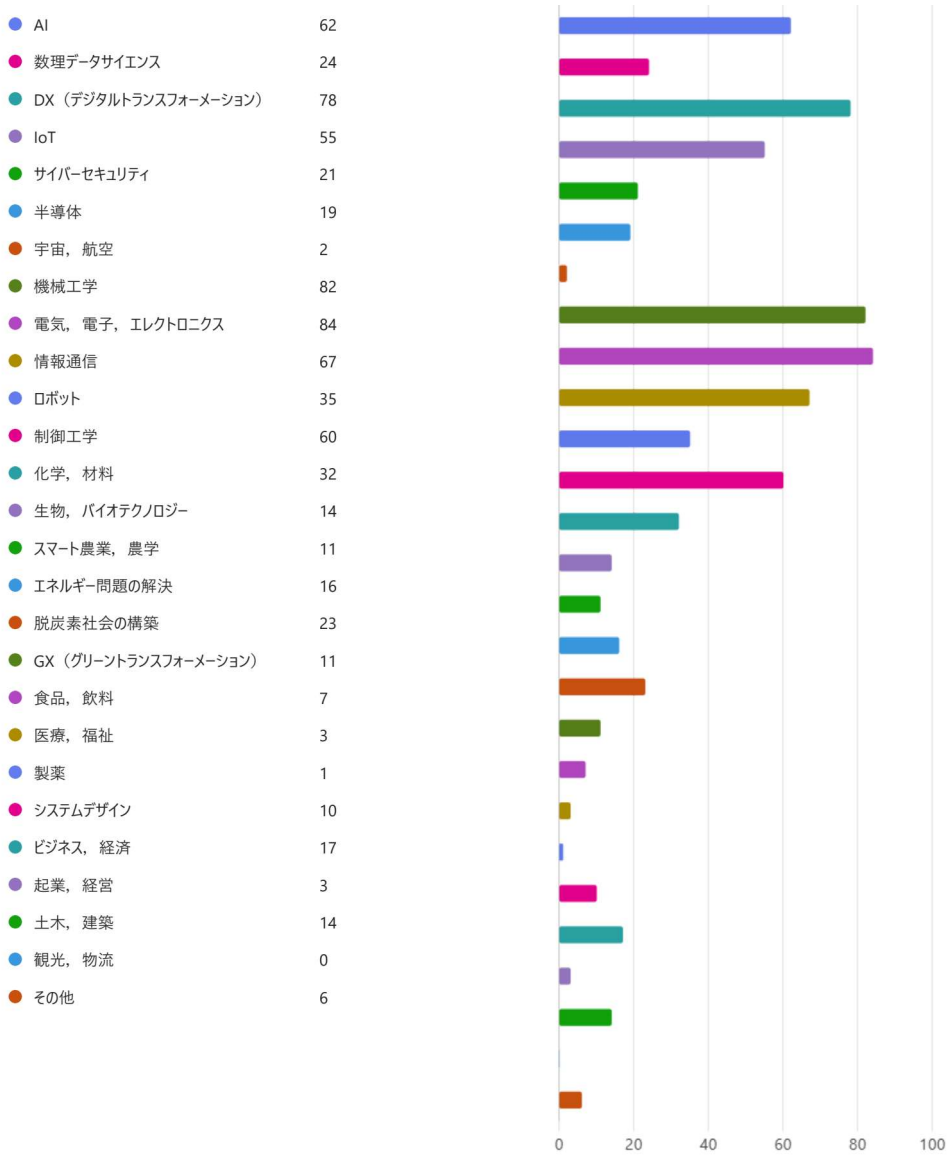
4. 旭川高専の卒業生・専攻科修了生が在学中に身につけた知識や能力に関する質問です。
旭川高専生が以下の知識や能力を身につけていたか、それぞれの項目について当てはまるものをお選びください。



5. 旭川高専卒業生・専攻科修了生が身につける能力・技能について、今後も重要視するものを以下からお選びください。（複数選択可）



6. 今後の旭川高専生が在学中に学んでおくと良いと思われる知識や技術を以下からお選びください。（複数選択可）



7. 旭川高専に対するご意見、ご提案等があればご記入ください。

53
応答

最新の回答
"今後ともよろしくお願い致します。"
"優秀な学生を是非採用させて頂きたいと考えております。宜しくお願い申し上げます。"
"広い視野に基づく思考の柔軟性をベースとして持つと、様々な分野での早い時期での活躍が..."
...

10回答者 (19%) この質問に 参加回答しました。 ↻ 更新



出典：2022年及び2023年旭川高専卒業生・修了生　就職先アンケート

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	北海道	118人	95.9%
2	埼玉県	1人	0.8%
3	東京都	1人	0.8%
4	新潟県	1人	0.8%
5	静岡県	1人	0.8%
	全　　体	123人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	北海道	98.61%	93.89%	92.22%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	理・工学系	102.56%	101.75%	101.60%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１

大学学部学科等名：機械システム工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	22人	16人	28人	17人	16人	21人
		受験者数	22人	16人	28人	17人	16人	21人
		合格者数	21人	15人	28人	17人	16人	20.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	22人	16人	28人	17人	16人	20.75
		受験者数	22人	16人	28人	17人	16人	20.75
		合格者数	21人	15人	28人	17人	16人	20.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		21人	15人	28人	17人	16人	20.25
一般選抜	募集人数		19人	22人	16人	23人	24人	20
	延べ人数	志願者数	211人	148人	177人	152人	145人	172
		受験者数	211人	143人	177人	151人	141人	170.5
		合格者数	44人	28人	19人	19人	25人	27.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	10人	6人	6人	13人	11.75
	実人数	志願者数	48人	32人	26人	21人	27人	31.75
		受験者数	48人	31人	26人	20人	25人	31.25
		合格者数	44人	28人	19人	19人	25人	27.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	10人	6人	6人	13人	11.75
	入学者数		19人	18人	13人	13人	12人	15.75
共通テスト利用入試	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
合計	募集人数		43人	46人	40人	47人	48人	44人
	延べ人数	志願者数	233人	164人	205人	169人	161人	193人
		受験者数	233人	159人	205人	168人	157人	191人
		合格者数	65人	43人	47人	36人	41人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	25人	10人	6人	6人	13人	12人
	実人数	志願者数	70人	48人	54人	38人	43人	53人
		受験者数	70人	47人	54人	37人	41人	52人
		合格者数	65人	43人	47人	36人	41人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	25人	10人	6人	6人	13人	12人
	入学者数		40人	33人	41人	30人	28人	36人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.00	0.83	1.03	0.75	0.70	0.90
歩留率	0.62	0.77	0.87	0.83	0.68	0.77

（備考）本校の一般選抜は、全て、１の出願で全ての学科を併願できる制度となっているため、延べ人数に一般選抜（学力選抜）の総出願人数、実人数に「当該学科を第一志望とした人数」を記載している。なお、合格者数、追加合格者数、辞退者数については、延べ人数と実人数の合計者等の合計数である。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２

大学学部学科等名：電気情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	22人	20人	26人	16人	13人	21人
		受験者数	22人	20人	26人	16人	13人	21人
		合格者数	22人	20人	26人	16人	13人	21
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	22人	20人	26人	16人	13人	21
		受験者数	22人	20人	26人	16人	13人	21
		合格者数	22人	20人	26人	16人	13人	21
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		22人	20人	26人	16人	13人	21
一般選抜	募集人数		18人	18人	16人	24人	27人	19
	延べ人数	志願者数	211人	148人	177人	152人	145人	172
		受験者数	211人	143人	177人	151人	141人	170.5
		合格者数	35人	24人	38人	39人	30人	34
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	17人	10人	16人	21人	15人	16
	実人数	志願者数	40人	27人	42人	40人	34人	37.25
		受験者数	40人	26人	42人	40人	32人	37
		合格者数	35人	24人	38人	39人	30人	34
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	17人	10人	16人	21人	15人	16
	入学者数		18人	14人	22人	18人	15人	18
共通テスト利用入試	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
合計	募集人数		42人	42人	40人	48人	51人	43人
	延べ人数	志願者数	233人	168人	203人	168人	158人	193人
		受験者数	233人	163人	203人	167人	154人	192人
		合格者数	57人	44人	64人	55人	43人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	10人	16人	21人	15人	16人
	実人数	志願者数	62人	47人	68人	56人	47人	58人
		受験者数	62人	46人	68人	56人	45人	58人
		合格者数	57人	44人	64人	55人	43人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	10人	16人	21人	15人	16人
	入学者数		40人	34人	48人	34人	28人	39人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.00	0.85	1.20	0.85	0.70	0.98
歩留率	0.70	0.77	0.75	0.62	0.65	0.71

（備考）本校の一般選抜は、全て、１の出願で全ての学科を併願できる制度となっているため、延べ人数に一般選抜（学力選抜）の総出願人数、実人数に「当該学科を第一志望とした人数」を記載している。なお、合格者数、追加合格者数、辞退者数については、延べ人数と実人数の合計者等の合計数である。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－３

大学学部学科等名：システム制御情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	22人	29人	27人	22人	26人	25人
		受験者数	22人	29人	27人	22人	26人	25人
		合格者数	22人	26人	27人	22人	26人	24.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	22人	29人	27人	22人	26人	25
		受験者数	22人	29人	27人	22人	26人	25
		合格者数	22人	26人	27人	22人	26人	24.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		22人	26人	27人	22人	26人	24.25
一般選抜	募集人数		18人	16人	16人	18人	16人	17
	延べ人数	志願者数	211人	148人	177人	152人	145人	172
		受験者数	211人	143人	177人	151人	141人	170.5
		合格者数	54人	38人	46人	37人	34人	43.75
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	36人	19人	33人	22人	20人	27.5
	実人数	志願者数	56人	38人	53人	39人	34人	46.5
		受験者数	56人	37人	53人	39人	34人	46.25
		合格者数	54人	38人	46人	37人	34人	43.75
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	36人	19人	33人	22人	20人	27.5
	入学者数		18人	19人	13人	15人	14人	16.25
共通テスト利用入試	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人数				0人			0
	延べ人数	志願者数			1人			1
		受験者数			1人			1
		合格者数			1人			1
		うち追加合格者数			0人			0
		辞退者数			0人			0
	実人数	志願者数			1人			1
		受験者数			1人			1
		合格者数			1人			1
		うち追加合格者数			0人			0
		辞退者数			0人			0
	入学者数				1人			1
合計	募集人数		42人	40人	40人	42人	40人	41人
	延べ人数	志願者数	233人	177人	205人	174人	171人	197人
		受験者数	233人	172人	205人	173人	167人	196人
		合格者数	76人	64人	74人	59人	60人	68人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	19人	33人	22人	20人	28人
	実人数	志願者数	78人	67人	81人	61人	60人	72人
		受験者数	78人	66人	81人	61人	60人	72人
		合格者数	76人	64人	74人	59人	60人	68人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	19人	33人	22人	20人	28人
	入学者数		40人	45人	41人	37人	40人	41人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.00	1.13	1.03	0.93	1.00	1.02
歩留率	0.53	0.70	0.55	0.63	0.67	0.60

（備考）本校の一般選抜は、全て、１の出願で全ての学科を併願できる制度となっているため、延べ人数に一般選抜（学力選抜）の総出願人数、実人数に「当該学科を第一志望とした人数」を記載している。なお、合格者数、追加合格者数、辞退者数については、延べ人数と実人数の合計者等の合計数である。
　その他の特別選抜は、帰国生特別選抜。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－４

大学学部学科等名：物質化学工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	26人	29人	27人	23人	15人	26人
		受験者数	26人	29人	27人	23人	15人	26人
		合格者数	24人	27人	27人	23人	15人	25.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	26人	29人	27人	23人	15人	26.25
		受験者数	26人	29人	27人	23人	15人	26.25
		合格者数	24人	27人	27人	23人	15人	25.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		24人	27人	27人	23人	15人	25.25
一般選抜	募集人数		16人	16人	16人	17人	25人	16.25
	延べ人数	志願者数	211人	148人	177人	152人	145人	172
		受験者数	211人	143人	177人	151人	141人	170.5
		合格者数	53人	42人	48人	51人	50人	48.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人		0
		辞退者数	36人	28人	34人	40人	38人	34.5
	実人数	志願者数	64人	45人	56人	52人	50人	54.25
		受験者数	64人	43人	56人	52人	50人	53.75
		合格者数	53人	42人	48人	51人	50人	48.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	36人	28人	34人	40人	38人	34.5
	入学者数		17人	14人	14人	11人	12人	14
共通テスト利用入試	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
その他の特別選抜	募集人数							#DIV/0!
	延べ人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	実人数	志願者数						#DIV/0!
		受験者数						#DIV/0!
		合格者数						#DIV/0!
		うち追加合格者数						#DIV/0!
		辞退者数						#DIV/0!
	入学者数							#DIV/0!
合計	募集人数		40人	40人	40人	41人	49人	40人
	延べ人数	志願者数	237人	177人	204人	175人	160人	198人
		受験者数	237人	172人	204人	174人	156人	197人
		合格者数	77人	69人	75人	74人	65人	74人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	28人	34人	40人	38人	35人
	実人数	志願者数	90人	74人	83人	75人	65人	81人
		受験者数	90人	72人	83人	75人	65人	80人
		合格者数	77人	69人	75人	74人	65人	74人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	36人	28人	34人	40人	38人	35人
	入学者数		41人	41人	41人	34人	27人	39人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.03	1.03	1.03	0.85	0.68	0.98
歩留率	0.53	0.59	0.55	0.46	0.42	0.53

（備考）本校の一般選抜は、全て、１の出願で全ての学科を併願できる制度となっているため、延べ人数に一般選抜（学力選抜）の総出願人数、実人数に「当該学科を第一志望とした人数」を記載している。なお、合格者数、追加合格者数、辞退者数については、延べ人数と実人数の合計者等の合計数である。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：旭川工業高等専門学校　オープンキャンパス・体験入学

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	194人	198人	①取組概要 旭川高専の全学科について、学科の体験入学及び学科の説明会を実施するもの。 ②オープンキャンパスや体験入学に参加する層は、かなりの確率で高専に大きな興味を持っており、特に受験対象年度の生徒は、最終的な受験判断のために本PRイベントに参加している可能性が高い。 しかし、しかし、イベントの内容から事前予約を要するコンテンツもあり、例年、200～250名程度の参加者に対し、5割弱が、入試に合格し、入学に至ると見ており、本校定員の半数程度を本PRイベントの参加者が占めることから、改組後の新学科等においても、同様の傾向が見込まれる。 注：受験者数については、受験者個人に対する統計的数値を有していないため、未算出。 入学者数は、入学者へのアンケートに対する回答内容から算出したものであるため、本PR活動の
うち受験対象者数(b)	156人	150人	
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)	70人	59人	
（受験率 c/b）	0.0%	0.0%	
（入学率 d/b）	44.9%	39.3%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：旭川工業高等専門学校　道内中学校での説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1865人	1934人	①取組概要 旭川市内を主として、道内中学校各校から招かれる形で、市内の中学3年生へ、旭川高専の概要及び特徴の説明を実施している。 主催は各中学校であるが、毎年必ず出席している。 （R3年度　7月～2月　20校、R4年度　7～10月　20校） これは、中学生の高専自体の認知度が低いため、普段の生活では高専という学校種を認知することがない層に、アプローチする取組となっている。 ②中学生視点でとらえると、進学先として「特定の学科に入学する」ことを主としているのではなく「普通高校かそれとも高専を選ぶか」を主眼とし、その中で学科を選択することとなっており、本分析と同様の受験率等が想定される。なお、本校は全学科改組となることもあり、本PRのみをもって特定学科への入学者の人数予測を行うことは困難。
うち受験対象者数(b)	1717人	1919人	
うち受験者数(c)	114人	117人	
うち入学者数(d)	61人	64人	
（受験率 c/b）	6.6%	0.0%	
（入学率 d/b）	3.6%	3.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：旭川工業高等専門学校　北海道内中学校への学校紹介リーフレットの配布（郵送）

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2251人	2205人	①取組概要 北海道内中学校宛に、本校紹介のリーフレットを送付している、 中学校内で、受験対象年の生徒に配布いただいている。 ②中学生視点でとらえると、進学先として「特定の学科に入学する」ことを主としているのではなく「普通高校かそれとも高専を選ぶか」を主眼とし、その中で学科を選択することとなるため、本分析と同様の受験率等が想定される。なお、本校は全学科改組となることもあり、本PRのみをもって特定学科への入学者の人数予測を行うことは困難。
うち受験対象者数(b)	2251人	2205人	
うち受験者数(c)	223人	208人	
うち入学者数(d)	130人	118人	
（受験率 c/b）	9.9%	0.0%	
（入学率 d/b）	5.8%	5.4%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!		
（入学率 d/b）	#DIV/0!		

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!		
（入学率 d/b）	#DIV/0!		